



独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所

National Institute of Special Needs Education

第49回全国特別支援教育  
センター協議会  
研究協議会（大阪大会）  
令和7年10月30日（木）

# 特総研(NISE) 事業説明

## 国の政策

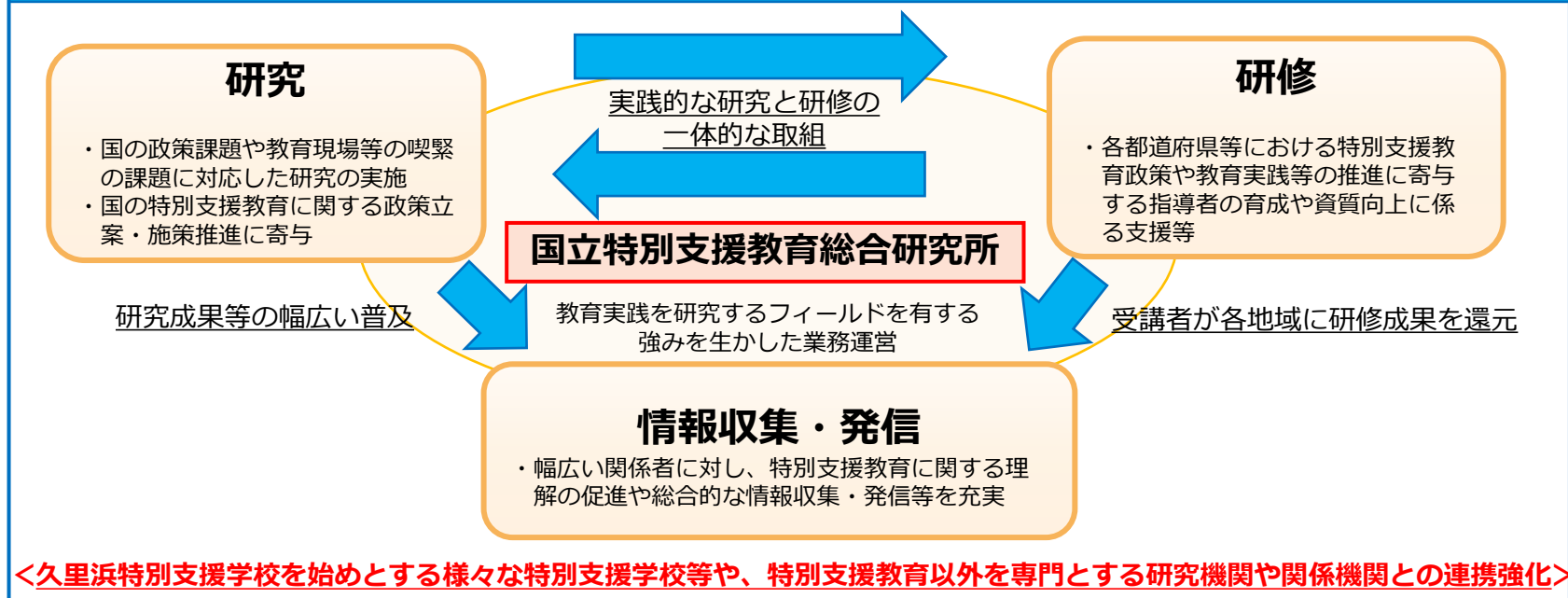
※第5期中期目標（令和3年度～令和7年度）

障害者の権利に関する条約の批准を受け、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育を推進

## 法人の使命

我が国唯一の特別支援教育のナショナルセンターとして、**インクルーシブ教育システムの構築に向け**、国や地方公共団体、関係機関等と連携・協力しつつ、教育実践を研究するフィールドを有し、**実践的な研究と研修を一体的に行うことができる法人の強みを生かしながら**、**特別支援教育を取り巻く国内外の情勢の変化も踏まえた国の政策課題や教育現場の課題**に柔軟かつ迅速に対応する業務運営を行い、もって障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献する。

## 第5期中期目標期間における目標



研究区分	研究の性格（研究期間）
<b>重点課題研究</b>	障害種の枠を超えて、国の特別支援教育政策の推進、又は教育現場等の喫緊の課題解決に寄与する研究（2～3年間）。
<b>障害種別特定研究</b>	各障害種における喫緊の課題の解決に寄与する研究（原則2年間）。
その他	<p><b>基礎的研究活動</b>：テーマ別研究班及び障害種別研究班における基盤的な研究。年次基礎調査や、指導の充実等に寄与する調査・分析、それらの結果の普及等の基礎的・継続的な研究活動。</p> <p><b>先端的・先導的研究</b>：将来的な教育政策の検討資料や教育実践の選択肢を提示することを目標に行う研究（1～3年間）。</p> <p><b>国の要請等に応じた研究</b>：国の政策立案等に貢献することを目的とした研究。</p> <p><b>共同研究</b>：本研究所が大学や民間などの研究機関等と共同で行う研究。</p> <p><b>外部資金研究</b>：科学研究費助成金等の外部資金を獲得して行う研究。</p> <p><b>受託研究</b>：外部からの委託を受けて行う研究。</p>

- 各障害種の枠を超えて組織的に取り組む「重点課題研究」を中心に、多様な研究を実施。
- 障害種別研究班及びテーマ別研究班（令和3年度に設置）による基盤的な研究活動の充実。
- 研究を戦略的かつ効果的に推進するため、研究課題に応じて外部の研究協力者や研究協力機関との連携を強化。



## 特別支援教育に関する現状と課題②

### 4. 現行学習指導要領のポイントと成果

#### (幼・小・中・高校における現行学習指導要領の改訂のポイント)

- 個々の子供たちの障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うことを引き続き総則に規定
- 各教科等においても、学習上の困難に応じた指導内容や指導方法の工夫を行うことを規定
- 特別支援学級において実施する特別の教育課程の編成に関する基本的な考え方を規定(小・中)
  - ✓ 自立活動を取り入れること
  - ✓ 実態に応じた教育課程を編成すること
- 通級による指導における特別の教育課程の編成に関する基本的な考え方を規定(小・中・高)
  - ✓ 自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うこと
- 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・活用について、以下のとおり規定
  - ✓ 家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で教育的支援を行う観点から、個別の教育支援計画の作成・活用に努める
  - ✓ 各教科等の指導に当たって個別の指導計画の作成・活用に努める
  - ✓ 特別支援学級に在籍する子供たちや通級による指導を受ける子供たちについては、両計画の作成・活用を義務化
- これらにより、特別支援学級や通級による指導において、個々の子供たちの実態に応じ個別の指導計画を作成・活用した自立活動の指導や各教科等の指導の取組が進められている

#### (特別支援学校における現行学習指導要領の改訂のポイント)

- 育成を目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、カリキュラム・マネジメントの確立など、初等中等教育全体の改善・充実の方向性を重視
- 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱の特別支援学校において、障害の状態や特性等を十分考慮し、育成を目指す資質・能力を育むため、障害の特性等に応じた指導上の配慮を充実、ICT機器の活用等を規定
- 発達障害を含む多様な障害に応じた指導を充実するため、自立活動の内容として、「障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」等を規定
- 知的障害の各教科について、幼・小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視
  - ✓ 知的障害の各教科等の目標・内容について、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理
  - ✓ 中学部に二つの段階を新設、小・中・高等部の各段階に目標を設定し、段階ごとの内容を充実
  - ✓ 特に必要がある場合には、個別の指導計画に基づき、相当する学校段階までの小学校等の学習指導要領の各教科の目標・内容の一部を取り入れることができる旨を規定
- 自立と社会参加に向けた教育の充実のため、幼稚部、小学部、中学部段階からのキャリア教育の充実を規定
- これらにより、個々の子供たちの実態に応じた自立活動の指導や、各教科等の授業改善に向けた取組が進められている

# ●「各教科等において、学習上の困難に応じた指導内容や指導方法の工夫」 関連の研究成果

- 令和3～4年度 重点課題として「通常の学級における多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の配慮に関する研究」を実施。
- 特別な教育的ニーズのある子供に焦点を当てながら教科指導を整理し、通常の学級に在籍する多様な教育的ニーズのある子供の**教科指導上の配慮の考え方**や、**個に応じた配慮の例**を資料として提案
- また、通常の学級における**個と集団**を意識した環境づくりや、子供の思いや願いを踏まえた実践を紹介
- 令和6年3月には、研究成果をもとに、リーフレット「**教科指導上の個に応じた配慮の観点**」を刊行

## 小学校【算数】

<困難さ>  
「商」「等しい」など、児童が日頃使用することが少なく、抽象度の高い言葉の理解が難しい

(学習指導要領解説の記載あり)

困難さの背景	指導の工夫の意図	個に応じた手立て
・加減乗除などの言葉の意味と実際の学習活動との結びつきが十分でないため。	・体験的な活動を通して視覚的・具体的なイメージをもてるようにする。	・児童の興味・関心や生活経験に関連の深い教材を取り上げて、既習の言葉や分かりやすい言葉に置き換えて、イメージをもてるようにする。

子供と共に行う手立ての効果の確認(例)  
・言葉の意味を理解し、学習ができているかを確認する。

<困難さ>  
文章を読み取り、数量の関係を式を用いて表すことが難しい

(学習指導要領解説の記載あり)

困難さの背景	指導の工夫の意図	個に応じた手立て
・推論することが難しく、数量の関係を具体的にイメージできないため。	・数量の関係に対する具体的なイメージをもち、数式などをたてることができるようになる。	・児童の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げる。 ・具体物を用いた場面の動作化・ブロックや積み木などの触覚教材を用いた操作活動をさせる。

解決に必要な情報に注目できるよう文章を一部分ごと示したり、図式化したりする。

子供と共に行う手立ての効果の確認(例)  
・文章題を読み取り、正しく数式などがたてられているかを確認する。

<困難さ>  
大きな数の概念や小数の計算をするのが難しい

(学習指導要領解説の記載なし)

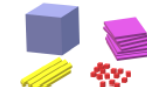
困難さの背景	指導の工夫の意図	個に応じた手立て
・繰り上がりや繰り下がりの手続きなど十進法位取りができなため。	・十進法位取りが正しくできるようにする。	・10のまとまりを捉えられるような図や位取り表を使用する。

子供と共に行う手立ての効果の確認(例)  
・位取り表の1マスに1つの数字が入り、十進法位取りについて理解できているかを確認する。

・具体的なものと抽象的なものを結びつにくく、大きな数や小数などのイメージができなため。

・大きな数や小数のイメージが正しく持てるようにする。

・具体物や図で視覚的に捉えたり、身近なものに置き換えたりする。




子供と共に行う手立ての効果の確認(例)  
・いくつかの大きな数や小数について、大小を判別したり、言葉で説明したりできるかを確認する。

<困難さ>  
面積や体積について、既習を基に立式することが難しい

(学習指導要領解説の記載なし)

困難さの背景	指導の工夫の意図	個に応じた手立て
・底辺や円周率など、図形と言葉と結びつにくく、公式の意味が理解できないため。	・公式を使い、面積や体積を求めることができるようになる。	・式と図形を対応させた色をつけるなど注目してほしいところを強調して、公式と図形との関係を結びつける。 ・具体物を用いて、見たり、触ったり、回転させたりしながら違いを確認する。

子供と共に行う手立ての効果の確認(例)  
・公式が表しているものを言葉で説明させ、正しく図と結びついているかを確認する。



通常の学級における多様な教育的ニーズのある子供の学びを支援します

## 教科指導上の 個に応じた配慮の観点

- どの子ども  
わかりやすい授業
- 多様な教育的ニーズ  
ある子どもの実態把握
- 集団全体への指導  
と個に応じた指導・支援
- 互いに認め合い、  
支え合える学習集団
- 合理的配慮とその  
組織となる環境整備
- 子供の思いや願いの  
受け止め



このリーフレットは、国立特別支援教育総合研究所が実施した調査研究「通常の学級に在籍する多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の配慮に関する研究」（令和3～4年度）において作成したものです。  
この報告書では教科指導上の個に応じた配慮の観点を中心に、各教科における具体的な指導法を紹介しています。

国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education



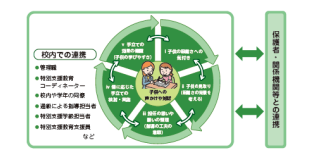
研究成果報告書は  
こちらのQRコードから

リーフレットはこちらの  
QRコードから



## 「教科指導上の個に応じた配慮」を考える流れ

【教科指導上の個に応じた配慮】を考える流れを整理しました。図は、配慮を考える全過程をあらわすものに作成しています。1から9の数字は、説明のために付したものです。それぞれの項目が一方的に流れられるのではなく、行き止まりが複数発生することを想定しています。



1. 子供の困難さへの受け取り  
児童は、個々の子供にどのような困難さを感じ、学習課題に「参加」することが困難な子供や、担任の指示どおりにできない子供、既習の学びができていない子供がいることに気付くことが重要です。中には、子供自身で困難さを感じていない場合や、学習などに対して過度な不安を感じている子供もいます。子供の困難さについて、行き止まりが複数発生する可能性があります。
2. 子供の困難さ（困難さの発見）  
児童が学ぶ子供について、その困難さの背景を考えると、適切な指導や必要な支援につながります。困難さの発見を考えるには、「観察」「質問」「検査」といった方法があります。既習だけでは、児童の困難さの背景を正確に把握することができません。
3. 担任の思いや願いの把握（指導の工夫の意図）  
子供の学習態度への影響や、学習の理解に付いて、担任の思いや願いを整理し、個々の子供の困難さのことや学習のこと、特性を踏まえて、指導の工夫の意図を整理します。
4. 個に応じた手立ての検討・実施  
個々の子供の特性や学習課題、学習指導要領（記述）、児童の学力や、学習指導要領を適切に検討し、実施します。子供の困難さや学習課題を踏まえて、手立ての検討を行います。方法や手段は、児童の状況や学習内容に応じて決定する必要があります。
5. 手立ての効果の確認  
子供以上に「手立ての検討」を重視します。これにより、子供の学習態度の向上や、主体的な学び、学校生活に参画するようになることが期待されます。子供の「学びやすさ」を確保しながら手立ての検討や評価、方法等を検証すると効果的です。

解説書に記載の<困難さ>についての  
紹介や、手立ての効果の確認例も追記

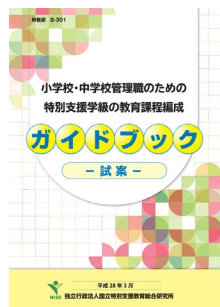
解説書に記載のない<困難さ>も追記

# ●「特別支援学級における特別の教育課程」関連の研究成果

- 現行の学習指導要領の内容を踏まえ、平成30～令和2年度に特別の教育課程の編成に関する研究、令和元～2年度に担当**経験の浅い教員の授業力向上等の研究**を実施
- 令和3年3月に、**教育課程編成考え方、編成手順のガイド、事例を紹介**した「特別支援学級の教育課程編成・実施ガイドブック」を刊行
- 令和3～4年度 重点課題研究「学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価・改善に関する研究」では、特別支援学級の**教育課程の状況や課題**を明らかにし、**課題を踏まえた事例研究**を実施

平成30～2年度 基幹研究  
特別支援教育における教育課程の総合的研究  
－新学習指導要領に基づく教育課程の編成・編成実施に向けた現状と課題－

平成26～27年度専門研究A  
「今後の特別支援教育の進展に資する特別支援学校及び特別支援学級における教育課程に関する実際的研究」



令和元～2年度 基幹研究  
知的障害特別支援学級担当者サポートキットの開発  
－授業づくりを中心に－



知的障害特別支援学級担当者のための授業づくりサポートキット (小学校編)  
**すけっと** Suketto



さらに詳しい内容は、Webページ「すけっと ばすけっと」へアクセス！



「すけっと ばすけっと」には「すけっと」ダウンロード版に加え、「すけっと」紹介動画や、知的障害教育に関する基礎的な内容を解説した「すけっとどうが」などのコンテンツが揃っています。

令和3～4年度 重点課題研究  
学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価・改善に関する研究

小・中学校 特別支援学級

教育課程

- 当該学年の各教科の年間授業時数について、実施している割合

小3、小6、中3 各学年全体の結果

小3・小6	どの教科も約8割～9割
中3	どの教科も約6割～8割

- 交流及び共同学習について、困難を感じること

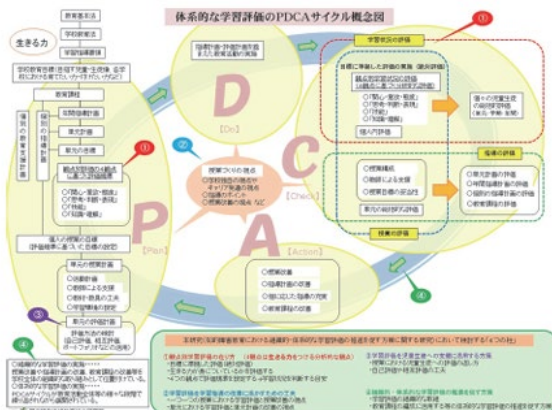
交流先の児童生徒の保護者に対して、その目的や内容について理解・啓発を行うこと

交流及び共同学習の授業において教科等の指導目標を活性化すること

# 「知的障害教育」関連の研究成果

- 知的障害教育の**学習内容の系統性**やどの児童生徒にも**共通して教えるべき内容に着目し**、その学習内容や指導内容に学校の特色を反映させた上で、児童生徒が行う学習活動の必然性を説明できるようにする必要があるのでないかとの問題意識のもと、
- 平成25～26年度 基幹研究として組織的な学習評価について研究を実施、その後平成27～28年度 基幹研究では、「**育成を目指す資質・能力**」を踏まえた**学習活動の計画・実施・評価**をする方法についての研究を実施
- 令和3～4年度 重点課題研究において、教科別の指導及び各教科等を合わせた指導における**単元づくりと学習評価**について取り上げ、一人一人の実態に応じた**指導目標や指導内容の設定**と、**学習指導要領の目標・内容とのつながり**について、実践上の工夫点について検討

平成25～26年度 専門研究B  
「知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策に関する研究－特別支援学校（知的障害）の実践事例を踏まえた検討を通じて－」



平成27～28年度 基幹研究  
知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程編成の在り方－アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化－

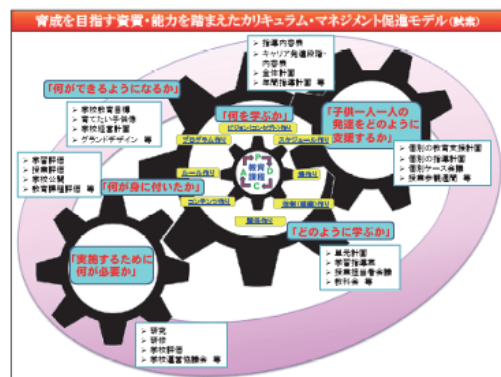


図1 育成を目指す資質・能力を踏まえたカリキュラム・マネジメント促進モデル(試案)

令和3～4年度 障害種別特定研究  
知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究

	課題の整理	プロセスモデルの検討	検討すべき課題
単元づくりの検討と単元作成プロセスの検討	1 児童生徒の実態に応じた単元目標の設定	● 指導目標の設定 ● 評価規準の作成の工夫や留意点を提示	● 学習指導要領を踏まえた単元計画の作成や授業づくり ● 評価規準の設定や学習評価の実施を支援
	2 評価規準の作成	「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」では各々留意点等が異なる。	「単元プロセスモデル」をもとに「単元計画シート」を作成する
	3 各教科等を合わせた指導で取り扱う教科等の整理		
	4 教員間の情報の共有と各教科等との関連	指導の形態ごとに「単元作成プロセスモデル」を作成する	



研究成果報告書はこちらのQRコードから

○研究成果を踏まえ、情報普及ページを開設  
・ 単元計画シート  
・ 説明動画コンテンツ  
などを情報提供



情報普及ページのQRコードはこちら  
研究所HPに掲載



研究成果報告書はこちらのQRコードから



サマリー(要点)はこちらのQRコードから



研究成果報告書はこちらのQRコードから



サマリー(要点)はこちらのQRコードから

# 研究成果の活用状況①

(令和4年度に終了した研究課題の研究成果の活用度に関するアンケート調査)

調査期間 令和7年3月3日～令和7年3月28日



- 令和4年度に終了した研究課題の研究成果報告書サマリー集、研究成果報告書、リーフレット、ガイドブック等（9の成果物）の活用状況について、調査を実施
- 調査方法 当研究所のアンケートサーバー（調査URL）にアクセスして入力（回答）いただく
- 調査対象 都道府県・指定都市・中核市の教育委員会  
都道府県・指定都市の特別支援教育センター、教育センター  
市区町村教育センター、教育研究所 計 722機関→276件の回答（回収率38.2%）

○9つの成果物のうち、一つ以上の研究成果物について

「よく活用した」と回答した割合 17.0%

「活用したことがある」と回答した割合 76.1%

○「よく活用した」「活用したことがある」のいずれかで回答した成果物が2つ以上ある機関の割合 68.1%

○「よく活用した」「活用したことがある」のいずれかで回答した割合の高い成果物

通常の学級における多様な教育的ニーズのある子供の学びを支えます

### 教科指導上の 個に応じた配慮の観点

どの子にも わかりやすい授業	多様な教育的ニーズ ある子どもの実態把握	課題を単への指導・支援 と個に応じた指導・支援
互いに認め合い、 支え合える学習環境	合理的配慮とその 基盤となる環境整備	子供の思いや願いの 実行止め

このリーフレットは、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所が実施した調査の  
結果を、調査の対象とした都道府県・指定都市・中核市の教育委員会に配布し、  
活用する研究（令和3～4年度）において作成したものです。  
調査結果等については調査結果を公開した際の公表方針に従って、各機関におき  
て適切な形で活用していただきます。

独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education

62.3%

教科指導上の個に応じた配慮の観点  
(リーフレット)



重点課題研究

通常の学級における多様な教育的ニーズのある  
子供の教科指導上の配慮に関する研究

(令和3年度～令和4年度)

研究成果報告書

令和5年3月

独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
NISE

50.0%

「通常の学級における多様な  
教育的ニーズのある子供の教科  
指導上の配慮に関する研究  
(令和3～4年度)  
【研究成果報告書】

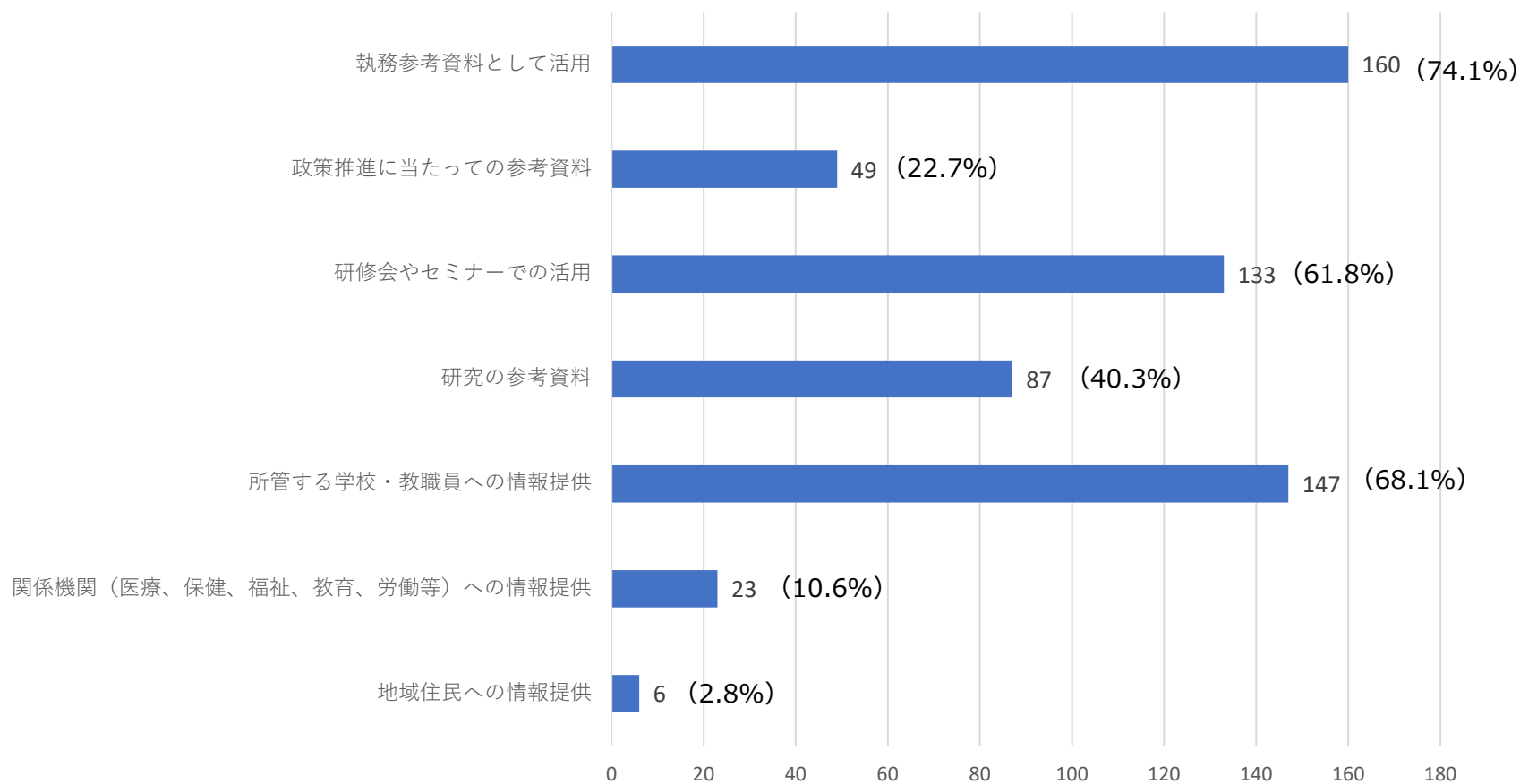


# 研究成果の活用状況② (令和4年度に終了した研究課題の研究成果の活用度に関するアンケート調査)

調査期間 令和7年3月3日～令和7年3月28日



活用の場面 主にどのような場面で活用できましたか、あるいは活用する予定ですか



(註)  
・複数回答  
・割合(%)は、回答があった216機関に対する割合

## 1 国の政策課題や教育現場のニーズ等に対応できる指導者の専門性の向上

### ○特別支援教育専門研修

- ◆発達障害・情緒障害・言語障害教育コース
- ◆知的障害教育コース
- ◆視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱教育コース

### ○インクルーシブ教育システムの充実に関わる指導者研究協議会・セミナー

- ◆特別支援教育におけるICT活用に関わる指導者研究協議会のある児童生徒の対応
- ◆高等学校における通級指導による指導に関わる指導者研究協議会
- ◆交流及び共同学習推進指導者研究協議会
- ◆発達障害教育実践セミナー

### ○連携研修

- ◆特別支援学校寄宿舎指導実践協議会（全国特別支援学校長会との連携研修）

## 2 各都道府県等が実施する教員の資質向上に関わる支援

### ○インターネットによる講義配信「NISE学びラボ～特別支援教育eラーニング～」

### ○免許法認定通信教育



## ◆知的障害教育コース

期間：令和7年5月12日～令和7年7月11日

## ◆視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・情弱教育コース

期間：令和7年9月9日～令和7年11月14日

## ◆発達障害・情緒障害・言語障害教育コース

期間：令和8年1月7日～令和8年3月13日



・知的障害教育専修プログラム



・視覚障害教育専修プログラム  
・聴覚障害教育専修プログラム  
・肢体不自由教育専修プログラム  
・病弱教育専修プログラム



・発達障害・情緒障害教育専修プログラム  
・言語障害教育専修プログラム

各研修の実施形態は、  
開始2週間をオンライン  
、中間4週間を来所、後  
半3週間をオンラインと  
して、実施予定

### 【カリキュラム内容】

#### ○共通講義

- ・特別支援教育についての基本的な事項
- ・国の施策、喫緊の課題へ対応する内容
- ・インクルーシブ教育システム充実に向けた
- ・各障害種教育論
- ・心理、生理及び病理
- ・研修成果の還元
- ・実地研修
- ・研究協議

#### ○各専修プログラムの専門領域

- ・教育理論（基礎理論、生理・病理、心理）
- ・教育実践
- ・学校経営
- ・実地研修
- ・課題研究

### 【研修修了1年後のアンケート】

対象	質問	回答
R5年度 研修修了者	研修成果を教育実践等に反映できているか	①とてもそう思う 52.0% ②そう思う 47.5% ③あまりそうは思わない 1.0% ④そうは思わない 0.5%
受講者の所属長 (学校長等)	研修成果を教育実践等に反映されているか	①とてもそう思う 57.6% ②そう思う 41.3% ③あまりそうは思わない 0.0% ④そうは思わない 0.0%
受講者の任命権者 (教育委員会等)	研修や研究会等の企画・立案、講師としての参画など、指導的役割を 実現できていると思うか	①とてもそう思う 51.7% ②そう思う 43.7% ③あまりそうは思わない 1.1% ④そうは思わない 0.0%

# 免許法認定講習 特別支援学校教諭免許状取得のための取得可能単位



科目区分		視覚 (註)	聴覚 (註)	肢体 (註)	病弱 (註)	知的 (註)	発達 (註)	言語 (註)
第1欄	特別支援教育の基礎理論に関する科目	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
第2欄	特別支援教育領域に関する科目 心身の障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位	-	-
	心身に障害のある幼児、児童及び生徒の教育課程及び指導法に関する科目	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	-	-
第3欄	免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身の障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
	心身に障害のある幼児、児童及び生徒の教育課程及び指導法に関する科目							

(註) 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱教育コース

視覚：視覚障害教育専修プログラム

聴覚：聴覚障害教育専修プログラム

肢体：肢体不自由教育専修プログラム

病弱：病弱教育専修プログラム

知的障害教育コース

知的障害教育専修プログラム

発達障害・情緒障害・言語障害教育コース

発達障害・情緒障害教育専修プログラム

言語障害教育専修プログラム

【参考】教職員免許法別表第七（第六条関係）

第一欄	特別支援学校教諭	特別支援学校教諭		
		専修免許状	一種免許状	二種免許状
第二欄	有することを必要とする特別支援学校の教員の（二種免許状の授与を受けようとする場合には、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教員）の免許状の種類	一種免許状	二種免許状	幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教諭の普通免許状
第三欄	第二欄に定める各免許状を取得した後、特別支援学校の教員（二種免許状の授与を受けようとする場合には、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は幼保連携型認定こども園の教員を含む）として良好な成績で勤務した旨の実務証明責任者の証明を有することを必要とする最低在職年数	3	3	3
第四欄	第二欄に定める各免許状を取得した後、大学において修得することを必要とする最低単位数	15	6	6

備考 この表の規定により専修免許状又は一種免許状の授与を受けようとする者に係る第三欄に定める最低在職年数については、その授与を受けようとする免許状に定められることとなる特別支援教育領域を担任する教員として在籍した年数とする。

## ○インクルーシブ教育システムの充実に関わる指導者研究協議会等

### ①特別支援教育におけるICT活用に関わる指導者研究協議会（募集人員：各60名）

<目的> 各都道府県教育委員会・センター等の指導主事及び指導的立場にある幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員を対象に、特別支援教育における教育支援機器等の活用に関する専門的知識を深め、各地域における指導・支援の充実を図る。

<期間> 令和7年7月17日～18日（募集人員：60名）  
令和7年7月24日～25日（募集人員：60名）

### ③交流及び共同学習推進指導者研究協議会（募集人員：80名）

<目的> 各都道府県教育委員会・センター等の指導主事及び指導的立場にある幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員を対象に、研究協議等を通じ、各地域における交流及び共同学習と障害の理解推進を図る。

<期間> 令和7年11月26日 \*オンライン実施

### ②高等学校における通級による指導に関わる指導者研究協議会（募集人員：70名）

<目的> 各都道府県等において、高等学校における通級による指導に関わる指導主事及び担当教員を対象に、研究協議等を通じ、担当者の専門性の向上及び高等学校における通級による指導の理解推進を図る。

<期間> 令和7年8月28日～29日

### ④発達障害教育実践セミナー（募集人員：70名）

<目的> 本セミナーは、教師の人材育成を担う都道府県・指定都市の教育委員会及び教育センターの研修担当の指導主事等を対象とし、通常の学級における発達障害教育の充実に向けた人材育成に関する取組の推進に寄与する。

<期間> 令和7年12月4日 \*オンライン実施

## ○校長会との連携研修

### ⑤特別支援学校寄宿舎指導実践協議会（募集人員：オンライン配信、PMの対面 50名程度）

<目的> 特別支援学校寄宿舎における幼児児童生徒の生活指導等に関して、各都道府県等の寄宿舎指導員による実践発表、情報交換等を行い、寄宿舎における指導の充実を図る。

<期間> 令和7年8月20日 \*基調講演、事例報告 AM：オンライン配信、研究協議 PM：対面のみ

## インターネットによる講義配信 NISE学びラボ ～特別支援教育eラーニング～

障害のある児童生徒等の教育に携わる教職員の資質向上を図る主体的な取組を支援するため、インターネットによる講義配信「NISE学びラボ」特別支援教育eラーニングを行っています。



NISE 学びラボの登録はこちらから

### 講義コンテンツ分類

- ① 特別支援教育全般
- ② 障害種別の専門性
- ③ 通常の学級における学びの困難さに応じた指導

### 団体登録により研修プログラムが設定できます！

教育委員会等の機関が主催する研修等で、受講者のニーズに合わせて複数の講義コンテンツを組み合わせた研修プログラムが設定できます。修了者には視聴証明書を発行します。



スライド及びテキストの内容はPDF形式でダウンロードできる。

### 映像講義のイメージ

No.	研修プログラム
1	インクルーシブ教育システムについて学ぶ
2	特別支援教育コーディネーターになったら
3	特別支援学級（知的障害）の担任になったら
4	特別支援学級（自閉症・情緒障害）の担任になったら
5	特別支援学校の教師になったら
6	通級による指導の担当者になったら
7	小学校・中学校等の管理職になったら
8	すべての教職員を対象に：本人・保護者に寄り添った指導・支援のために
9	幼児期における特別支援教育
10	高等学校段階における特別支援教育
11	これから教師になる人たちのために



2024年3月に研修の手引きを発行

特別支援教育に関する インターネット無料講義配信



「これから教員になる人」を対  
とした講義動画プログラムの提  
供を始めました！

国立特別支援教育総合研究所では、障害のある児童生徒等の教育に携わる教職員の資質能力向上を図る主体的な取組を支援するため、インターネットによる講義配信「NISE学びラボ」を公開しています。

「NISE学びラボ」では、令和5年4月から、教員として採用される予定の学生など、これから教員になる方に向けて、インクルーシブ教育システムの基本や、各学校における特別支援教育の概要について学ぶことができる講義動画プログラム「これから教員になる人たちのために」の提供を新たに開始しました。

講義動画プログラム「これから教員になる人たちのために」は例えば、  
こんな活用の仕方ができます！

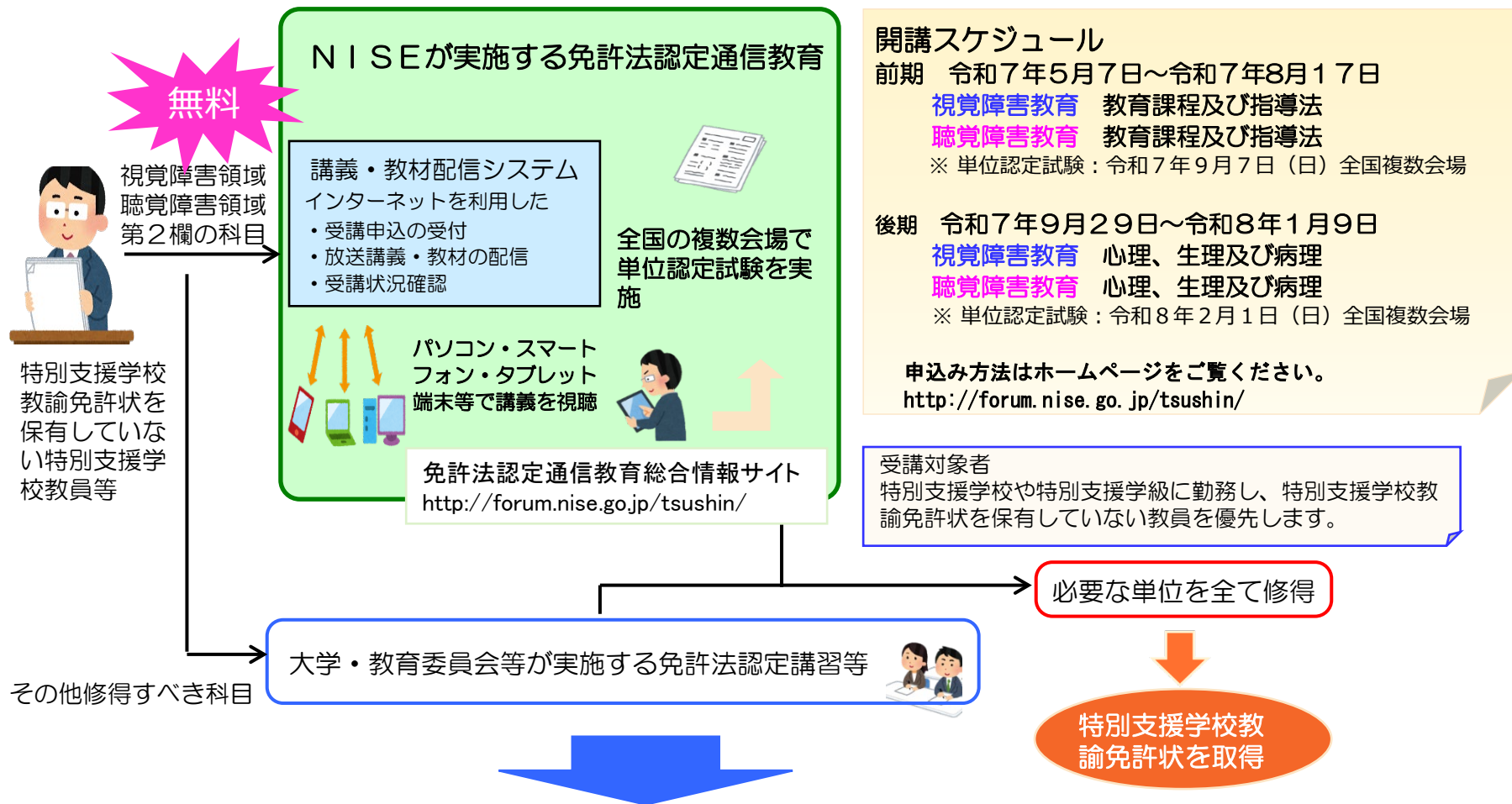
活用例1 **教育委員会の採用前研修での視聴動画として**

活用例2 **教職実践演習等、大学の教職課程の授業の視聴動画として**

活用例3 **教員になる予定の方の自己学習の視聴動画として**

「NISE学びラボ」は、教育委員会、大学等で団体登録をすることで、プログラム受講者の講義動画の視聴状況を、研修の主催者でモニタリングすることができます（個人で登録、視聴いただくことも可能です）。

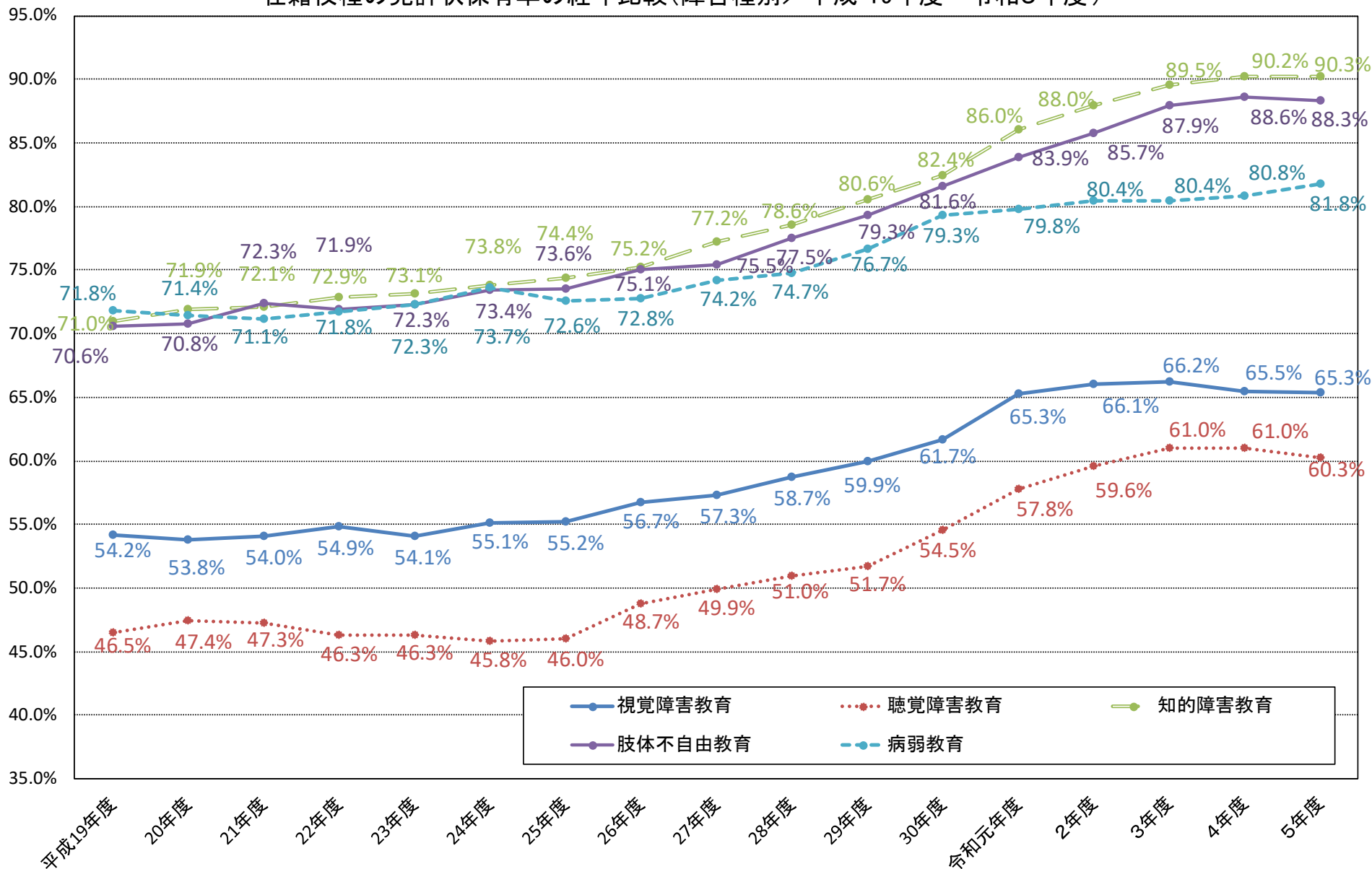
平成28年10月より開講



特別支援学校教員の特別支援学校教諭免許状取得率向上に寄与

# 在籍校種の特別支援学校教諭等免許状の保有率の推移（障害種別）

在籍校種の免許状保有率の経年比較(障害種別／平成 19年度～令和5年度)



# 特別支援教育リーフの作成、刊行

ホームページよりダウンロードできます。



幼稚園等、小・中学校、高等学校等で特別支援教育の指導の経験のない又は経験年数の少ない教員に対する特別支援教育の理解啓発・普及を目的としたリーフレットを作成。(現在、28号まで刊行済み)

## 特別支援教育リーフ シリーズ

特別支援教育について学ぶ機会がなかなか得られなかった先生へ  
初めて通級による指導や特別支援学級を担当する先生へ

Advance  
発展編

Basic  
基礎編

Case studies  
事例編

特別支援教育リーフは、特別支援教育について学ぶ機会がなかなか得られなかった先生や、小・中・高等学校等で初めて通級による指導や特別支援学級を担当する先生に向けて、学習上・生活上の困難さがある児童生徒がそれぞれの学びの場でより良く学び充実した学校生活を送れるようになるためには、どのように取り組んでいくと良いか考えていくためのきっかけとなる内容をまとめ、取組のヒントとなる情報を記載しています。

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 (NISE)  
情報・支援部

〒239-8585 神奈川県横浜須賀野市野比5丁目1番1号  
電話：046-839-6803 (代表)

リーフシリーズ  
https://www.nise.go.jp/nc/report\_material/research\_results\_publications/leaf\_series

特別支援教育リーフ vol.6

このように考えよう、合理的配慮

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

インターネットによる購読情報もあります。詳しくは [NISE教育リーフ](http://nise.go.jp/leaf/)

「合理的配慮」の提供で、子供の本来の力を引き出すよう！

子供の困りごとに対する合理的配慮の提供のプロセス

合理的配慮を必要とする児童生徒の困りごとを把握し、その困りごとを解決するために必要な配慮を特定し、その提供を確保する。このプロセスは、児童生徒の困りごとを把握し、その困りごとを解決するために必要な配慮を特定し、その提供を確保する。このプロセスは、児童生徒の困りごとを把握し、その困りごとを解決するために必要な配慮を特定し、その提供を確保する。

合理的配慮を提供するときの留意点

合理的配慮を提供するときの留意点

みらいを理解のために

困りにとる伝えられる関係づくり

合理的配慮の提供に向けての留意点

合理的配慮の提供に向けての留意点

### 人工内耳をつけると、聞こえる人と同じ聞こえになる？

近年、聞こえにくいお子さんが乳幼児期に手術を受け、人工内耳をつけるケースが増えています。マイク①で集めた音は、スピーチプロセッサ②で電気信号に変換され、その信号がケーブル③を通り、送電コイル④を介して頭部に埋め込んだ受電装置⑤へ送られます。送電コイルは磁石で頭皮を介して受電装置と接しています。受電装置に伝わった信号は蝸牛の中に埋め込んだ電極⑥から聴神経を介して脳へ送られ、音として認識されます。

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 聴覚科

〒239-8585 神奈川県横浜須賀野市野比5丁目1番1号  
電話：046-839-6803 (代表)

「特別支援教育リーフ」実際の紙面の一部 ( Vol. 25 人工内耳をつけた幼児児童生徒への支援 )



特別支援教育リーフは、それぞれの号のねらいや主な内容によって、3つのシリーズ構成で順次刊行

- ・Basic（基礎編）：基礎的・基本的内容の紹介
- ・Case Studies（事例編）：事例から学ぶ
- ・Advance（発展編）：発展的な取り組みの紹介

## ①「Basic(基礎編)」シリーズ

- Vol.1 ここからはじめてみよう、特別支援学級
- Vol.5 このように考えよう、合理的配慮
- Vol.7 みんなの思いを言葉にしよう！つなげよう！  
～個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用～
- Vol.11 「交流及び共同学習」の授業づくり
- Vol.13 障害のある子供へのキャリア教育
- Vol.18 「自立活動」をプラスして、子供のできた！わかった！を増やしていこう
- Vol.20 知的障害のある児童生徒の学びを支える各教科について
- Vol.21 知的障害のある児童生徒の学びを支える学習評価について
- Vol.22 知的障害特別支援学級における教育課程編成と授業づくり

## ②「Case Studies(事例編)」シリーズ

- Vol.8 聞こえにくさのある子供の理解と支援
- Vol.9 感情をコントロールすることが苦手な子供の理解と支援
- Vol.10 人前で話すことが苦手な子供の理解と支援
- Vol.12 急な予定の変更に対応することが苦手な子供の理解と支援
- Vol.15 見えにくさのある子供の理解と支援
- Vol.16 子どもの話す「ことば」が気になる先生へ
- Vol.17 よく忘れ物をしてしまう子供の理解と支援
- Vol.19 板書を書き写すことが苦手な子供の理解と支援
- Vol.23 ダウン症のある子供の理解と支援  
～より深く知って、日々の実践に生かしてみよう～
- Vol.25 人工内耳をつけた幼児児童生徒への支援

## ③「Advance(発展編)」シリーズ

- Vol.2 障害のある子供も共に楽しむ体育の授業
- Vol.3 学習や生活を豊かにするICT
- Vol.4 多様性の理解につながる『障害理解』
- Vol.6 活用してみよう、「センター的機能」
- Vol.14 キャリア・パスポートを作成と活用
- Vol.24 困難さのある高校生の進路指導の充実を目指して  
～自己理解に焦点を当てて～
- Vol.26 「できること」「やりたいこと」を支える支援機器の活用  
－アクセシビリティとアシスティブテクノロジー－
- Vol.27 デフリンピックから学ぶ きこえない・きこえにくい人が安心して  
楽しめるスポーツの工夫
- Vol.28 不登校の予防と支援～発達障害等のある児童生徒も含めて～



本サイトについて ▾ 詳細検索 ▾ リンク集

● 検索する

教材・支援機器 実践事例

検索はキーワードを入力してください。

急上昇ワード 見る テレビ

技術 テレビ会議

Pick Up

いろいろな実践を知りたい！

どんな教材があるの？

この教材、どうやって使うの？

**支援教材ポータルサイト  
リニューアルしました**

## ICT機器を使った国語科と算数科学習への取組

**概要**  
意思伝達のコミュニケーション支援として、文字入力やシンボルを押すことで音声を発信したり、文字を書いたりすることで、相手への自分が伝えたいことを伝える。

**事例**  
Q5-2①.pdf

詳細 >

## デジタル教科書、実物投影機、iPadを活用した説明文の学習

**概要**  
特別支援学級(知的障害)での3・4年生、12名の合同授業でデジタル教科書、実物投影機、iPadを活用し、説明文「しかけカードの作り方」の内容の理解を図った。

**事例**  
C94-20.pdf

詳細 >

## フラッシュ素材を使ってお話しをつくらう

**概要**  
異学年、知的障害を伴う異なる障害種の児童が、ソフトウェア「フラッシュ教材試作集～あそんでつくるプリント教材～」を使って、お話し作成に取り組み、発表することができた。

**事例**  
C94-19.pdf

## ● おすすめの教材・支援機器

聞く 見る

### ICレコーダー



聞くことが苦手な子どもは、耳から入る情報を即時に処理することが苦手です。ICレコ…

### 感情表現ツール



絵カードやシート、シールなどいろいろな表情が描かれています。自分の気持ちがどれに当…

### ポメラDM20



すぐに起動ができ、書き留めることが可能

### オーバーレイメーカー



インテリキー専用のキーボードをレイアウトするソフトウェア。コンピュータ操作が難しい方…

### 携帯型デジプレーヤー



DAISY録音図書を手軽に再生できる。MP3の音楽データ再生機能やボイスレコーダー機…

### チェンジングボード



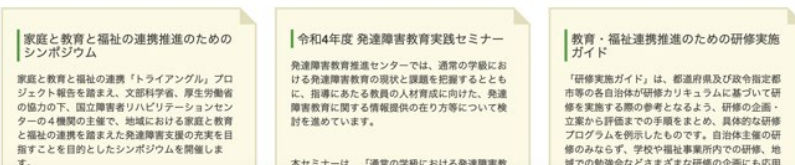
視覚障害者のホワイトボード

## ● お知らせ・新着情報

- > 2023/12/27 **お知らせ** 福島県立特別支援学校での実践事例78件を掲載しました
- > 2023/12/19 **お知らせ** 宮城県立特別支援学校での実践事例80件を掲載しました
- > 2023/12/05 **お知らせ** 支援教材ポータルサイトをリニューアルしました
- > 2023/12/27 **実践事例** 修学旅行における同級生とのリモート通信
- > 2023/12/27 **実践事例** 学校祭のポスターにデジタル表現を取り入れた活動

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
〒239-8585 神奈川県横浜須賀野5丁目1番1号  
電話番号:046-839-6803(代表) 法人番号:4021005008147

サイトポリシー アクセシビリティポリシー



## 主なコンテンツ

- ① 発達障害の理解
- ② 指導・支援
- ③ 研修講義動画
- ④ 発達障害Q&A
- ⑤ 発達障害に関する研究
- ⑥ 国の動向や法令等
- ⑦ イベントや研修会の情報



研修講義の一部はYouTubeでも視聴可





## 発達障害ナビポータル <https://hattatsu.go.jp/>



発達障害ナビポータル  
国が提供する発達障害に特化したポータルサイト

キーワードを入力

検索

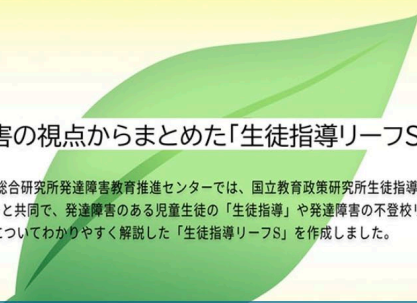


ご本人・ご家族の方



支援機関の方

発達障害ナビポータルは、厚生労働省と文部科学省の協力の下、国立障害者リハビリテーションセンター（発達障害情報・支援センター）と国立特別支援教育総合研究所（発達障害教育推進センター）の両センターが共同で運用する発達障害に関する情報に特化したポータルサイトです。



\*発達障害の視点からまとめた「生徒指導リーフS」\*

国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センターでは、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導センターと共同で、発達障害のある児童生徒の「生徒指導」や発達障害の不登校リスクと予防についてわかりやすく解説した「生徒指導リーフS」を作成しました。

「生徒指導リーフS」のご紹介

- 発達障害教育推進センターについて
- 「生徒指導リーフS」のご紹介
- 世界自閉症啓発デーについて

ご本人・ご家族

- 乳幼児期
- 学童期・思春期
- 青年期・成人期
- 保護者・家族向け

働く

暮らし

特集

お知らせ

トピックス

イベント

情報検索ツール『ココみて』

- 国が提供する発達障害に特化したポータルサイトです。
- 発達障害に関する信頼のおける情報を提供します。

### 共同運営

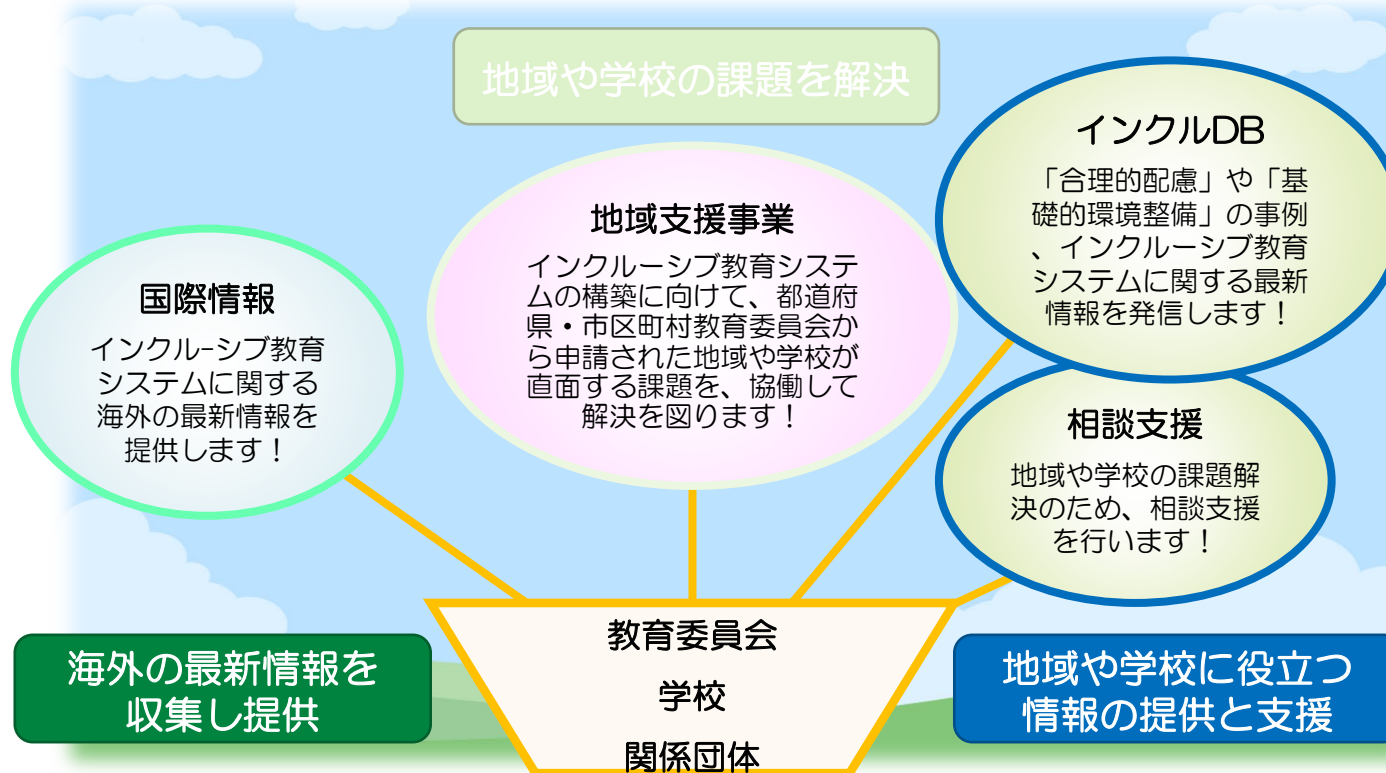
- 厚労省
- 国立障害者リハビリテーションセンター
- 文部科学省
- 国立特別支援教育総合研究所



# インクルーシブ教育システム構築への寄与

～「インクルーシブ教育システム推進センター」の設置（平成28年4月）～

インクルーシブ教育システムの構築を一層推進するため、**地域や学校の取組を強力にバックアップ**していきます。



インクルーシブ教育システム推進センターの詳細は、こちらのウェブサイトからご覧いただけます。

[https://www.nise.go.jp/nc/about\\_nise/inclusive\\_center](https://www.nise.go.jp/nc/about_nise/inclusive_center)



教育委員会と研究所が連携して地域のインクルーシブ教育システム構築を推進する事業です

## 具体的には・・・

- 研究所と日常的に連携して、インクルーシブ教育システム構築に関する課題の解決に向けた取組を推進します
- これまでの「地域実践研究」の研究成果を活用できます
- 他の地域と情報交換することができます
- 事業の成果を、研究所と協働して地域に普及することができます

## 事業内容の例

- 専門性のある指導体制の確保  
教育委員会主催の研修  
切れ目ない支援体制
- 交流及び共同学習の推進
- インクルーシブ教育システムに関連した理解啓発  
通常の学級担任向けの校内研修プログラム  
障害理解授業  
リーフレット作成



## 令和7年度 参加自治体

- 青森県 (6県市)
- 宮城県
- 赤平市(北海道)
- 秦野市(神奈川県)
- 鳥取市(鳥取県)
- 宗像市(福岡県)

## 令和7年度 実施計画

- 4月24日 事業説明会(リモート)
- 8月22日 推進プログラム(研究所)
- 9月～ 交流スペース(リモート)
- 3月上旬 事業報告会(リモート)  
各自治体での報告会等



推進プログラムの様子

## 令和6年度 地域支援事業報告会

- 日本のインクルーシブ教育システムを加速するために -  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム推進センター



研究所モニュメント  
「子どもとともに」

事業報告会 (リモート)

- 文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」等で得られた「合理的配慮」の実践事例をデータベース化
- 令和6年度、118,917件事例事例ダウンロード
- オンラインセミナーの実施



研究所の動画サイト  
(NISEチャンネル)  
でご覧いただけます。  
QRコードはこちら →



- ・日本人学校に対して、特別支援教育に関する情報提供を定期的の実施。
- ・日本人学校を通じた相談支援。

日本人学校等で勤務される先生方へ  
特別支援教育サポート通信

2022年度  
第1号

(発行)  
独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
情報・支援部 学校教育支援・連携  
担当 <https://www.nise.go.jp/nc/>

●●● 特総研ウェブサイトの活用例 ●●●

(事例) 発達障害のあるお子さんが在籍する学級の担任をしているA先生。  
授業中、あまり集中力が続かない児童に、どのように指導したら良いか悩んでいます。

学級の中に困っているお子さんはいませんか？  
国立特別支援教育総合研究所（特総研）のウェブサイトをご活用ください！

特総研のウェブサイトでは、特別支援教育に関する様々なコンテンツがご利用いただけます。

アクセスはこちらから▼

URL  
<https://www.nise.go.jp/nc/>

NISE

「NISE」で検索

こんな活用方法もありますよ😊

**活用例① | インクルDB |** で実際の指導事例を検索。指導の参考になる。

インクルDB

キーワード検索

集中力 検索

インクルDBでキーワード検索すると類似事例を調べられる

(検索結果例)  
B児は**集中力**の持続が困難なことから、ぼんやりしていることが多い。

(実際の指導例)  
椅子に滑り止めを置くと姿勢が安定します。

早速取り入れてみよう！

**活用例② | NISE学びラボ |** で特別支援教育について学習できる。

NISE 学びラボ

利用申請（無料）すると

およそ170の講義コンテンツから、受けたい講義をいつでもどこでも受講できます！講義時間は15～30分。パソコンやスマートフォンで手軽に受講可能です！

校内研修で活用しています。

特総研では、在外教育施設の先生方から、障害のあるお子さんへの指導や支援について、メールによる相談をお受けしております。ご希望の際は「wsodan2@nise.go.jp」宛てにお申込みください。なお、お返事までに1週間程度お時間をいただくこととなりますので、ご了解いただけますよう、よろしくお願いたします。

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部 学校教育支援・連携担当

**「特総研だより」**

2022年度 第1号

国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育情報

発行 2022年10月

発行所 国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5283-1111 FAX 03-5283-1112

E-MAIL [wsodan2@nise.go.jp](mailto:wsodan2@nise.go.jp)

URL [https://www.nise.go.jp/](https://www.nise.go.jp/nc/)



## 発見、体験、特総研!

国立特別支援教育総合研究所

# 研究所公開

ナイセ NISEと考える これからの特別支援教育

## 2025年11月8日(土)

【時間】 10:00～15:30 (受付9:40～15:00)

【場所】 国立特別支援教育総合研究所  
(神奈川県横須賀市野比5-1-1)

【参加費】 無料 【協力】 株式会社伊藤園

【後援】 神奈川県教育委員会 横須賀市教育委員会

詳細はこちら

[https://www.nise.go.jp/nc/laboratory\\_release](https://www.nise.go.jp/nc/laboratory_release)



独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education

- 京急久里浜駅から「久里浜医療センター」行バスで約15分  
「国立特別支援教育総合研究所」下車
- 京急久里浜駅、JR久里浜駅から「野比海岸」行バスで約20分  
終点「野比海岸」下車 徒歩約5分
- YRP野比駅から徒歩約20分
- 駐車場あり (なるべく公共交通機関をご利用ください)



## 研究所公開の主な催し

### インクルーシブスポーツを楽しもう 定員 ～HADO体験～

HADOはAR(拡張現実)技術を使った新しいスポーツで運動の得意・不得意や年齢、障害の有無に関わらず、誰でも楽しむことができます。  
(所要時間10分程度、各回定員36名)  
\*各開始時間の30分前から1階受付付近にて整理券配布予定

#### タイムスケジュール

- ① 10:30～11:30
- ② 11:30～12:30
- ③ 14:30～15:30

対象 4歳～高校生まで  
\*未就学児は保護者と一緒にプレイしてください

持ち物 体育館履き(かかとのある靴)

協力 (株) meleap



### ICT機器の活用体験 定員

ICT機器を活用して、特別支援教育の現場での使い方を紹介します。  
(所要時間30分程度、各回定員20名)  
\*各開始時間の15分前から会場にて整理券配布予定  
\*手話通訳あり

#### タイムスケジュール

- ① 12:20～12:50
- ② 14:30～15:00

### パン・焼き菓子販売

就労継続支援B型事務所が運営するお店が出版します。



### 一緒に考えよう 特別支援教育のこと

NISEの研究職員による講話  
(所要時間60分程度、各回定員100名)  
\*各回20分前より受付  
\*手話通訳あり

#### タイムスケジュール

- ① 午前の部 11:00～12:00  
「乳幼児期の『インクルーシブな保育』を支える保育者の専門性」  
講師:吉川 和幸 総括研究員
- ② 午後の部 13:00～14:00  
「自閉症のある子どもの豊かな表現の世界」  
講師:植権 英文 総括研究員

### 生活支援研究棟見学ツアー 定員

視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」の幼児児童生徒への教育について、考えてみませんか。  
(所要時間30分程度、各回定員15名)  
\*各開始時間の15分前から1階受付付近にて整理券配布予定  
\*手話通訳あり

#### タイムスケジュール

- ① 10:15～10:45
- ② 10:50～11:20
- ③ 11:25～11:55
- ④ 13:10～13:40
- ⑤ 13:45～14:15
- ⑥ 14:20～14:50



### 筑波大学附属久里浜特別支援学校 「作業製品・食品販売会」 同時開催

11:40より入場可能  
隣接する筑波大学附属久里浜特別支援学校において、「作業製品・食品 販売会」が開催されます。詳しくは学校のホームページをご確認ください。  
<https://www.kurihama.tsukuba.ac.jp/web/wp-content/uploads/2025/09/hanbai-poster-r7.pdf>



来場いただいた方には、お茶を1本プレゼント。(協力:株式会社伊藤園)  
\*先着500名、午前は仕事体験に参加の子供達がお渡しします。  
催しは他にもたくさんあります。詳細はホームページでご案内します。

### 事前のお申込みはこちら

[https://www.nise.go.jp/nc/laboratory\\_release](https://www.nise.go.jp/nc/laboratory_release)



\*事前にお申し添えください、入場受付がスムーズです。  
【事前にお申し添えたい方】ご登録のメールアドレス宛に届いたQRコードを受付でご呈示ください。  
【当日のお申し込みの方】受付にて申込書に必要事項をご記入いただき、ご提出ください。  
\*本研究所職員が撮影した映像及び写真は、研究所及び(株)meleapの広報媒体等に掲載し公開する場合がございます。あらかじめご了承ください。

【問い合わせ先】  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 担当: 広報係  
TEL: 046-839-6803 (代表)

独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education

## 国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育推進セミナー 2025

インクルーシブ教育システム構築に向けた実践を知り、参加者の交流を図ることを目的に開催します。

九州ブロック  
一地域の実情や地理的特色を生かした  
多様な学びの場における指導・支援の充実—

文字通訳あり 参加費無料

# 11.12 Wed

13:00-17:00

全国の方もYouTubeでご視聴いただけます。

<プログラム>

- 第1部 (Zoom, YouTubeライブ配信)
  - 13:00 開会式
  - 13:05 講義「インクルーシブ教育システムについて」
  - 13:35 報告「鹿児島県の取り組み」
  - 14:30 取組・実践紹介①②③、まとめ
- 第2部 (Zoom)
  - 15:55 グループ協議・情報交換
  - 16:55 閉会式

●登壇者：  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
鹿児島県教育庁特別支援教育課  
久根根市教育委員会  
枕崎市教育委員会

●主催：  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

●後援：文部科学省

**開催日時：2025年11月12日(水) 13:00～17:00**  
オンライン開催 ( Zoom , YouTubeライブ配信 )

・参加方法：Zoom (九州ブロックの方)  
YouTube (全国の方※第2部に参加されない九州ブロックの方を含む)

・定員：Zoom 300名、YouTubeライブ配信 無制限

・申込方法：以下 URL、または QRコード からお申し込みいただけます  
URL : [https://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/snep-seminar](https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/snep-seminar)

・申込締切：Zoom 11月5日(水)、YouTubeライブ配信11月7日(金)まで

<お問合せ先>独立行政法人国立特別支援教育総合研究所特別支援教育推進セミナー担当  
E-mail : [v-seminar2025k@nise.go.jp](mailto:v-seminar2025k@nise.go.jp) (九州ブロック)



お申込はこちらから！

## オンライン開催

視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」のお子さんの教育について一緒に考えませんか？

### 令和7年度 盲ろう教育実践セミナー

主催：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

回	日時・内容	申込締切
第1回	令和7年 8月21日(木) 14:00～16:00 講義「盲ろう教育の基礎・基本」 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 加藤 敦	8月17日(日)
第2回	令和7年 10月2日(木) 16:00～17:30 講演「盲ろうの子供たちの豊かなコミュニケーション～フランスのMCPVを活用した意思決定の支援に焦点を当てて～」(仮) Dominique SPRIET 氏	9月26日(金)
第3回	令和7年 12月24日(水) 10:00～12:00 実践報告「知的障害を伴う盲ろう(弱視聴覚)児童の指導実践について」 広島県立広島中央特別支援学校 教諭 上山知子 氏	12月19日(金)

◆ 開催方法 オンライン配信【Zoomを使用】

◆ 対象 視覚と聴覚の両方に障害のある(他の障害を併せ有する場合も含む)盲ろう幼児児童生徒の教育・療育等に関わっている、あるいは盲ろう教育に関心のある教職員、学生等

◆ 参加費 無料(事前申込制)

◆ 申込方法 URLまたはQRコードからお申し込みください。  
URL: <https://forms.office.com/r/h7W02cjqAc>

◆ お問い合わせ 本セミナーに関するご質問は、  
[v-db-seminar@nise.go.jp](mailto:v-db-seminar@nise.go.jp) にお問い合わせください。

◆ その他 ※盲ろう児が在籍する学校の先生方のご希望に応じて、オンラインを活用した個別研修も実施しております。随時ご相談ください。

本セミナーは、一般財団法人ファーストリテイリング財団の研究助成を受けて開催いたします。




## 令和7年度 国立特別支援教育総合研究所セミナー (一次案内)

### 共生社会の形成に向けた特別支援教育の展開

募集定員 会場：500名  
YouTubeライブ配信は  
定員制限無し  
※参加申込受付は  
令和8年1月開始予定

◇期 日 **令和8年2月28日(土)**

◇時 間 9時30分～16時15分 ※会場受付 9:00開始

◇会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

◇主な内容  
第I部 開会式、文部科学省行政説明、特総研の研究について重点課題研究等成果報告  
第II部 障害種別班等ポスター発表、重点課題研究等分科会


◇実施方法 対面及びYouTubeライブ配信併用(第I部のみ)

◇定 員 会場500名、YouTubeライブ配信定員制限無し


◇主 催 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

◇協 力 株式会社伊藤園  
公益財団法人みずほ教育福祉財団(五十音順)

(お問い合わせ) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 総務部総務企画課研究推進係  
TEL 046-839-6928 Mail [v-seminarwg2025@nise.go.jp](mailto:v-seminarwg2025@nise.go.jp)



(令和6年度研究所セミナー)



# 発達障害教育基礎セミナー (オンデマンド配信期間 R7.7.18~R8.1.12)



申し込みはこちら→



## 令和7年度発達障害教育基礎セミナー

### 【ご連絡】

※現在、特設ページから動画をご視聴いただけます。

※10月1日(水)～10月15日(水)までにお申込みいただいた方へのID及びパスワードの送付は、10月16日(木)を目処に行います。

**NEW** 2025.10.1 9月30日(火)午後5時までのお申込み分について特設ページ及びパスワードを送付しました。

2025.9.17 9月17日(水)午後2時までのお申込み分について特設ページ及びパスワードを送付しました。

2025.9.1 8月31日(日)17時までのお申込み分について特設ページ及びパスワードを送付しました。

2025.8.19 8月19日(火)16時までのお申込み分について特設ページのID及びパスワードを送付しました。

2025.8.1 8月1日(金)16時までのお申込み分について特設ページのID及びパスワードを送付しました。

2025.7.18 特設ページを公開しました。

2025.7.16 7月16日(水)までのお申込み分について特設ページのID及びパスワードを送付しました。

2025.6.2 個人申込み・団体申込み受付を開始しました。

2025.5.30 セミナーの案内を開始しました。

2025.5.22 セミナーの詳細を掲載しました。

## 令和7年度 発達障害教育基礎セミナー



### <テーマ>

通常の学級における発達障害のある子どもへの支援と環境づくり

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センターでは、発達障害のある児童生徒に関わる有識者、学校関係者等による「発達障害教育の情報提供等にかかる検討会議」を設置し、通常の学級における発達障害教育の現状と課題を把握するとともに、ウェブを活用した情報提供等に向けた取組を行っています。

その一環としてオンデマンド配信によるセミナーを開催し、検討会議の委員である常葉大学教育学部 特任教授 笹森 洋樹 氏より、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒に対する指導・支援について知見を提供いただきます。

**配信期間** 令和7年7月18日(金)～令和8年1月12日(月・祝)

**対象** 教育関係者

**形式** オンデマンド配信

**参加費** 無料

**内容** 笹森 洋樹 氏 講演、講演内容に関する対談



時間	プログラム
5分	開会、趣旨説明
I部 45分	講演「個に応じた指導・支援について」 常葉大学教育学部 特任教授 笹森 洋樹 氏 対談 常葉大学教育学部 特任教授 笹森 洋樹 氏 発達障害教育推進センター センター長 長江 清和
II部 45分	講演「校内支援体制について」 常葉大学教育学部 特任教授 笹森 洋樹 氏 対談 常葉大学教育学部 特任教授 笹森 洋樹 氏 発達障害教育推進センター センター長 長江 清和
5分	諸連絡、閉会

申込

発達障害教育推進センターホームページからの申し込み  
URL: <https://cpedd.nise.go.jp/r7kseminar>



問合せ(e-mail) [v-r7-kseminar@nise.go.jp](mailto:v-r7-kseminar@nise.go.jp) (発達障害教育推進センター セミナー担当)

## 国立特別支援教育総合研究所 2025年度NISE特別支援教育 国際シンポジウム

これからの日本のインクルーシブ教育システムについて考える

2025年12月20日(土)

開場 12:30

参加  
無料

対面・オンライン配信  
によるハイブリッド開催

開演 13:00~16:30

会場  
定員 150名  
オンライン  
定員 無制限

ビジョンセンター横浜みなとみらい701会議室

開会挨拶	13:00~
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 理事長	
基調講演	13:15~
「インクルーシブ教育システムに求められているもの」 眞城 知己氏 関西学院大学教育学部 教授	
調査報告	13:45~
「諸外国8か国（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、フィンランド、オーストラリア、韓国）の特別支援教育に関する国別調査報告」 佐藤 利正 国立特別支援教育総合研究所「インクルーシブ」教育システム推進センター 主任研究員	
話題提供	14:05~
「日本のインクルーシブ教育システムについて」 「スウェーデンのインクルーシブ教育システムについて」 「韓国のインクルーシブ教育システムについて」 「フランスのインクルーシブ教育システムについて」	
パネルディスカッション	15:35~
「諸外国の現状と取組から日本の小・中学校における指導・支援の充実について考える」	
閉会挨拶	16:25~

### ●登壇者

- 眞城 知己氏  
関西学院大学教育学部 教授
- 久保山 茂樹  
国立特別支援教育総合研究所インクルーシブ教育システム推進センター 上席総括研究員
- 是永 かな子氏  
高知大学 教授
- 李 照観氏  
順天郷大学校特殊児童教育研究所 研究教授
- 田尻 由起氏  
東洋大学 客員研究員

## 2025年度NISE特別支援教育 国際シンポジウム

開催日 2025年12月20日(土)  
13:00~16:30

対面&YouTubeライブ配信

### 参加申込について

参加希望の方は以下URLまたは、QRコードからお申込ください。

[https://www.nise.go.jp/nc/about\\_nise/inclusive\\_center/international/03](https://www.nise.go.jp/nc/about_nise/inclusive_center/international/03)

申込締切：12月12日(金)まで

会場参加：150名定員  
オンライン参加：定員無制限



SCAN HERE

### 会場アクセスについて



ビジョンセンター横浜みなとみらい7階701会議室

住所：〒220-0012  
神奈川県横浜市西区  
みなとみらい 3-6-1

地下鉄みなとみらい線  
みなとみらい駅直結  
(4番出口 → 4b出口)

# イベントスケジュール



nise.go.jp/nc/ ☆

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education

Google 提供

本文へ 文字サイズ 大 中 小 表示色 標準 1 2 お問い合わせ

English

印刷

ホーム	特総研とは	研究	研修・セミナー	報告書・資料	各障害における関連情報	English
-----	-------	----	---------	--------	-------------	---------

ホーム

ここから始めよう、特別支援教育

発達障害のある子供の指導・支援のヒント

研究者情報

特別支援教育専門研修

サイトマップ

## イベントスケジュール

特総研のイベント、セミナーの年間予定が確認できます。情報は随時更新されます。

詳しくはこちら ▶

アイコン欄からもチェックできます

イベントスケジュール

インクルージョンとウェルビーイングのためのシステム変革

発見、体験、特総研！令和7年度研究所公開

特別支援教育推進セミナー

2025年国際シンポジウム

再生 停止



特総研 (NISE)  
ホームページは  
こちらのQRコードから

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education

Google 提供

本文へ 文字サイズ 大 中 小

印刷

ホーム	特総研とは	研究	研修・セミナー	報告書・資料	各障害における関連情報
-----	-------	----	---------	--------	-------------

- 10月
  - 1 (水) [特別支援教育推進セミナー【発達障害等のある子どもの理解と支援（中国・四国ブロック、山口県）】](#)
  - 2 (木) [第2回 盲ろう教育実践セミナー](#)
  - NEW
  - 12 (日) [第8回広島大学・特総研ジョイントセミナー「インクルージョンとウェルビーイングのためのシステム変革—政策から実践へ、学際的対話を通じて—」](#)
- 11月
  - 8 (土) [研究所公開](#)
  - 12 (水) [特別支援教育推進セミナー【インクルーシブ教育システムの推進（九州ブロック、鹿児島県）】](#)
- 12月
  - 20 (土) [NISE特別支援教育国際シンポジウム](#)
  - 24 (水) [第3回 盲ろう教育実践セミナー](#)
- 1月
  - 12 (月) [令和7年度発達障害教育基礎セミナー（～2026年1月12日（月・祝）まで）](#) [オンデマンド配信]

## ○ホームページの充実

- ✓トップページにスライダー機能を搭載
- ✓利用者が素早く目的の情報を取得できるように、  
カテゴリー別にメニューボタンを配置
- ✓報告書・資料ページに研究成果等の  
更新情報を掲載

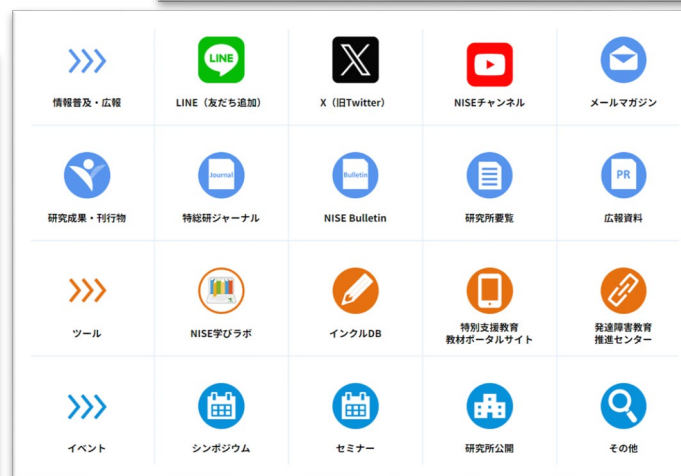
特総研（NISE）  
ホームページは  
こちらのQRコードから



## 報告書・資料

### 更新情報

- 124年8月30日 [国立特別支援教育総合研究所要覧2024（英語版）](#)を掲載しました。
- 124年8月30日 [特別支援学校における盲ろう幼児児童生徒の実態調査報告書（速報版）](#)を掲載しました。
- 124年8月28日 [NISE Bulletin vol.23](#)を掲載しました。
- 124年8月22日 [高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方に関する研究](#)を掲載しました。
- 124年8月1日 [研究成果報告書サマリー集（令和5年度終了課題）](#)を掲載しました。
- 124年6月3日 [令和5年度地域支援事業報告書 地域におけるインクルーシブ教育システムの推進](#)を掲載しました。
- 124年4月26日 [令和4年度特別支援学校（聴覚障害）における幼児児童生徒のコミュニケーションの実態・教材活用（国語科）に関する調査報告書](#)を掲載しました。



## メールマガジン

毎月ご案内。

### 【主な内容】

- ・ 特総研からのお知らせ
- ・ 特総研に関するトピックス記事
- ・ 研究成果、海外情報の紹介
- ・ 特別支援教育関連情報



## LINE

毎月2～3回ご案内。

### 【主な内容】

- ・ 特総研からのお知らせ



## X(旧Twitter)

随時ご案内。

### 【主な内容】

- ・ 特総研からのお知らせ



## 參考資料

# 国立特別支援教育総合研究所の位置



住所:神奈川県横須賀市野比5-1-1  
電話:046-839-6803(代表)



三浦半島



研究所周辺

沿革	
昭和46年10月	国の所轄機関として国立特殊教育総合研究所設置
平成13年 4月	独立行政法人化（主務大臣：文部科学大臣）
平成19年 4月	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所に名称変更
平成20年 4月	発達障害教育情報センター設置
平成28年 4月	インクルーシブ教育システム推進センター設置
平成29年 4月	発達障害教育推進センター設置（発達障害教育情報センターの機能拡充）
令和3年4月～ 令和8年3月	第5期中期目標期間（令和7年度は第5期中期目標期間の5年目）

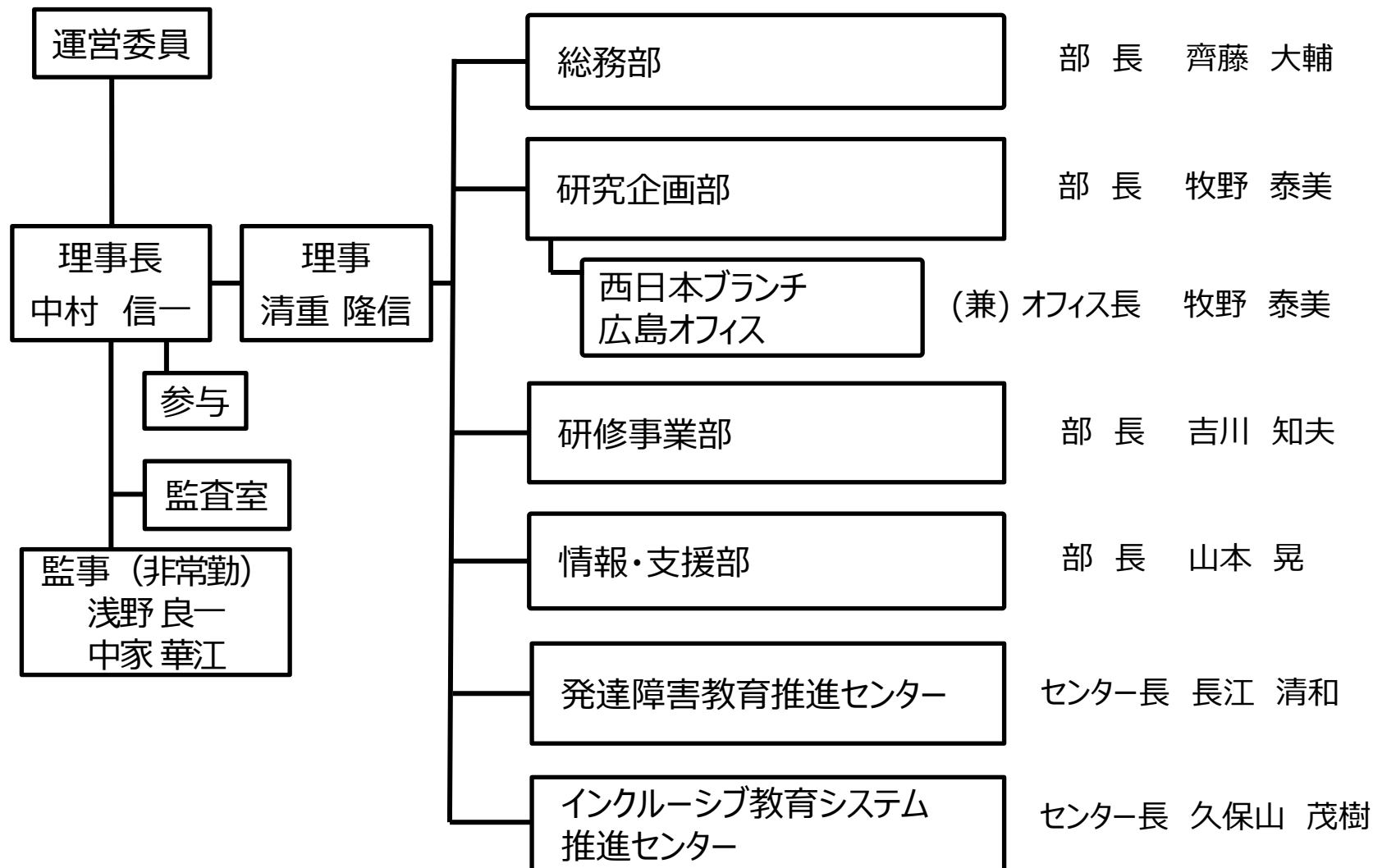
## 役員・職員数 R7.4.1時点

合計	77 (2)
役員	2 (2)
研究職	39
一般職	36

※( )は非常勤で外教

## 令和7年度の財政規模

区分	金額（千円）
運営費交付金	1,074,826
施設整備費補助金	45,980



# 重点課題研究・障害種別特定研究

重点課題研究：障害種の枠を超えて、国の特別支援教育政策の推進 又は教育現場等の喫緊の課題解決に寄与する研究  
 様々な専門による研究員が、研究チームを編成し、研究期間 2 ～ 3 年間の研究活動を行う。

障害種別特定研究：各障害種における喫緊の課題の解決に寄与する研究

いずれの研究についても、複数の研究員による研究チームを編成し、研究期間 2 ～ 3 年間の研究を行うとともに、研究報告書については、外部有識者による外部評価を実施する。

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
重点課題研究	教育課程に関する研究	学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価・改善に関する研究		特別支援教育に係る教育課程の基準等に関する研究		
	切れ目ない支援の充実にに関する研究	ICT等を活用した障害のある児童生徒の指導・支援に関する研究		多様な教育的ニーズのある子供の学びの場の充実にに関する研究		
		就学先決定の手続きに関する研究		共生社会の担い手を育む教育に関する研究－障害理解教育の検討を中心に－		
		高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究			障害のある生徒のキャリア教育の充実にに関する研究	
		通常の学級における多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の配慮に関する研究				
障害種別特定研究	知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究		肢体不自由教育におけるICTの活用に関する研究			

# 令和4年度終了 研究課題の研究成果

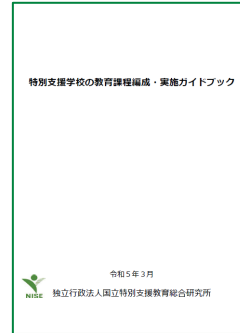
○研究成果報告書サマリー集  
(令和4年度終了課題  
5 課題掲載)



○リーフレット (通常の学級)  
教科指導上の個に応じた配慮  
の観点



○ガイドブック (教育課程)  
特別支援学校の教育課程  
編成・実践ガイドブック



○ガイドブック (ICT)  
特別支援教育におけるICTを  
活用した教育を推進するため  
に推進ガイド【特別支援学校編】



○研究成果報告書 (通常の学級)  
通常の学級における多様  
な教育的ニーズのある子  
供の教科指導上の配慮  
に関する研究  
(令和3～4年度)



○研究成果報告書 (教育課程)  
学習指導要領に基  
づく教育課程の編成  
・実践・評価・改善に  
関する研究  
(令和3～4年度)



○研究成果報告書 (ICT)  
ICT等を活用した障害のある  
児童生徒の指導・支援に関  
する研究 (令和3～4年度)



○研究成果報告書 (就学先決  
定)  
障害のある子どもの  
就学先決定の手續  
きに関する研究  
(令和3～4年度)



○研究成果報告書 (知的障害)  
知的障害教育における  
授業づくりと学習評価に  
関する研究  
(令和3～4年度)



# 通常の学級における多様な教育的ニーズにある子供の教科指導上の配慮に関する研究

## 1 研究の背景

### 通常の学級においても

- ・いじめ
- ・不登校
- ・障害のある子供など

特別な配慮を必要とする子供が在籍



学習指導要領(平成29年・30年告示)では、各教科等の学びの過程において考えられる困難さに対する指導の工夫の意図、手立ての例が示された。また、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)(中教審第228)では、「個別最適な学び」は、「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者の視点から整理した概念としてまとめられている。

## 2 研究の目的

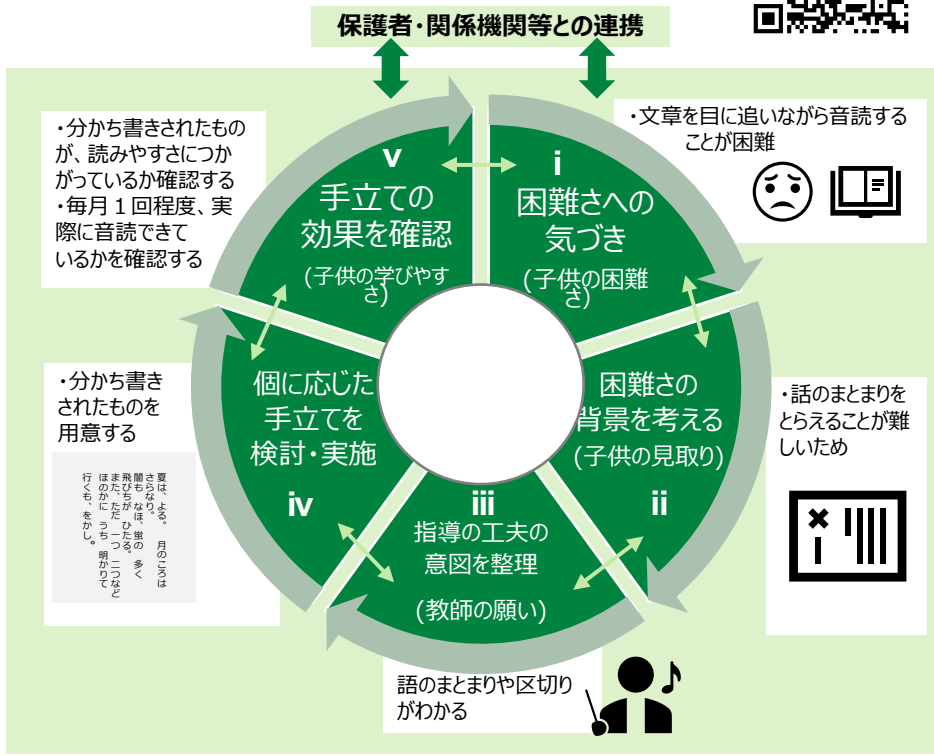
本研究では、小中高等学校等の通常の学級における教科指導において、多様な教育的ニーズに応じた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざした教育の保障という観点から、個に応じた配慮について検討し、「多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の配慮」の考え方をまとめることを目的としている。また、個と集団を意識した環境づくりや、子供の思いや願いを踏まえた実践についても注目する。

## 3 研究の方法

- 1 平成29・30年改訂学習指導要領各教科編の配慮事項の確認
- 2 教科指導法や合理的配慮の提供等に関する過去の実践・文献等の整理
- 3 「教科指導上の配慮」の検討に必要な観点の整理
- 4 研究協力機関及び研究協力校（小学校 14校、中学校 7校、高等学校 6校）との協議
- 5 「教科指導上の個に応じた配慮」の考え方の提案  
校種：小学校、中学校、高等学校等  
教科：国語、算数・数学、理科、社会、外国語  
※「個に応じた配慮」を考える流れ、「教科指導上の個に応じた配慮」の例示
- 6 子供の思いや願いを踏まえた実践に関する情報収集

## 4 「教科指導上の個に応じた配慮」の考え方

- 配慮を考える流れ（教科指導上の配慮の例（小学校 国語））



## 3 考察

本研究では「集団における指導」の観点から「教科指導上の個に応じた配慮」をまとめたことにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実するための個と集団の考え方の整理ができた。

本研究で提案した「教科指導上の個に応じた配慮」の考え方では、学習活動を行う場合に生じる子供の「困難さ」に気づき、その「困難さの背景」を明らかにすることを重要視した。また、子供の得意なことや苦手なこと等を踏まえ、教師が目指す子供の学習の目標を整理して、個に応じた手立てを検討・実施することが求められる。さらに、その手立てについて、子供と共にその効果を確認することで、次の効果的な手立てにつながると考える。

- このリーフレットは、重点課題研究「通常の学級に在籍する多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の配慮に関する研究」（令和3～4年度）において作成したものです。
- 成果報告書では教科指導上の個に応じた配慮の6つの観点を参考に、各教科における配慮の具体例を紹介しています。

通常の学級における多様な教育的ニーズのある子供の学びを支えます

## 教科指導上の 個に応じた配慮の観点

- どの子にもわかりやすい授業
- 多様な教育的ニーズのある子どもの実態把握
- 集団全体への指導・支援と個に応じた指導・支援
- 互いに認め合い、支え合える学級集団
- 合理的配慮とその基礎となる環境整備
- 子供の思いや願いの受け止め



このリーフレットは、国立研究開発法人国立特別支援教育総合研究所による重点課題研究「通常の学級に在籍する多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の配慮に関する研究」（令和3～4年度）において作成したものです。  
本成果報告書では研究成果のうち、教科指導上の配慮についての内容を、各教科における配慮の具体例を紹介しています。

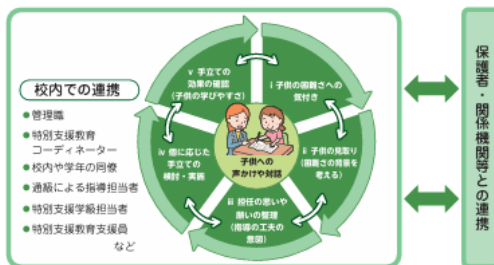
国立研究開発法人  
国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education



QRコードはこちら  
研究所HPにも掲載

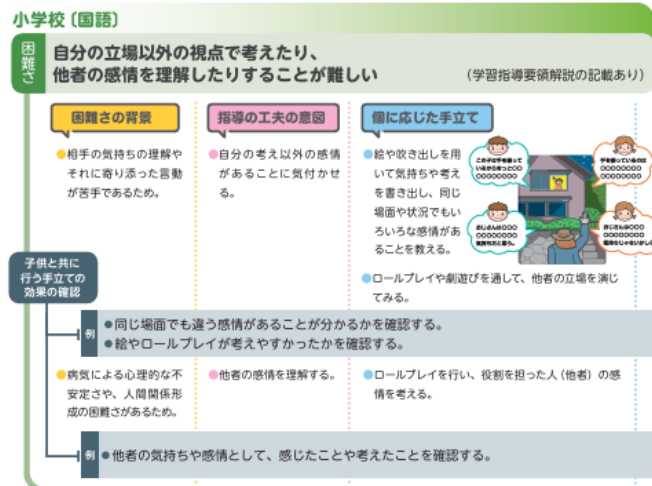
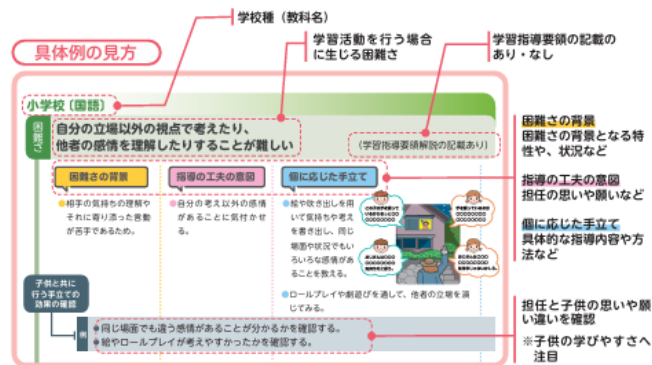
## 「教科指導上の個に応じた配慮」を考える流れ

「教科指導上の個に応じた配慮」を考える流れを整理しました。図は、配慮を考える全体像をとらえるために作成しています。iからvの数字は、説明のために付記したものです。それぞれの項目が一方的に流れるのではなく、行き来しながら配慮が検討されることを願っています



- 子供の困難さへの気づき**  
担任は、個々の子供たちの学習の様子を観察し、学習活動に「参加」することが困難な子供や、担任の指示どおりに学んでいない子供、独自の学び方等をしている子供がいることに気付くことが重要です。中には、子供自身に困難さの自覚がない場合や、苦手なことに対して過度な不安を抱いている子供もいます。子供の得意なことや苦手なことへの気づきを促す声かけ等を通して関わります。
- 子供の見取り（困難さの背景）**  
困難さがある子供について、その困難さの背景を考慮することで、適切な指導や必要な支援につながります。困難さの背景を考慮するためには、「観察」「面接」「検査」といった方法があります。担任だけでなく、複数の教員と連携・協働することが必要です。
- 担任の思いや願いの整理（指導の工夫の意図）**  
子供の学習活動への参加や、学習内容の理解に向けて、担任の思いや願いを整理し、個々の子供の得意なことや苦手なこと、特性を踏まえた、指導の工夫の意図を整理します。
- 個に応じた手立ての検討・実施**  
個々の子供の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法や教材、学習時間等を柔軟に検討・実施します。子供の自尊感情に配慮しながら手立ての必要性や内容、方法を提案し、合意形成を図りながら決定する必要があります。
- 手立ての効果の確認**  
子供と共に「手立ての効果」を確認します。これにより、子供の学習意欲の向上や、主体的な学び、学校生活に対する安心につながることが期待されます。子供の「学びやすさ」にも配慮しながら手立ての必要性や内容、方法を確認すると効果的です。

## 各教科における配慮の具体例



# 学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価・改善に関する研究

研究の背景・目的

改訂された学習指導要領に着実な実施に向けて、改訂の要点を踏まえた教育課程の編成・実施が各学校に求められる。また、教育課程の実施状況に基づく評価・改善などを通して、教育活動の質を向上させるカリキュラム・マネジメントの確立が重要となる。

本研究では、改訂された学習指導要領に基づいた教育課程の編成・実施状況の把握と、各学校の教育課程の編成・実施・評価・改善にかかる具体的な取組を明らかにするため、以下の2点を目的とした。

- ① 教育課程の編成・実施状況について、調査研究を通して状況を把握し、課題を整理する。
- ② 教育課程の編成・実施から評価・改善をどのように進めるか、事例研究を通してその具体的な取組を明らかにする。

研究の方法

## 研究1 質問紙調査

- a. 特別支援学級を設置する小学校及び中学校
  - ・それぞれ600校の特別支援学級担任に質問紙
  - ・小3、小6、中3の児童生徒在籍校を抽出
  - ・回答数 小195校(回収率32.5%)、中180校(回収率30.0%)
- b. 小学部、中学部、高等部普通科を設置する公立の特別支援学校
  - ・小学部及び中学部設置校 868校 →544校(回収率62.7%)
  - ・高等部普通科設置校 812校 →481校(回収率59.2%)

## 研究2 事例研究

事例研究の協力機関として選定された学級・学校は、これまで本研究所の教育課程研究や研究員の情報収集により、教育課程の改善につながる取組を進めている学級・学校を選定



主な結果

### 小・中学校 特別支援学級

#### 教育課程

- 当該学年の各教科の年間授業時数について、実施している割合

小3、小6、中3 各学年全体の結果

小3・小6	どの教科も約8割～9割
中3	どの教科も約6割～8割

- 交流及び共同学習について、困難を感じる

交流先の児童生徒の保護者に対して、その目的や内容について理解・啓発を行うこと

交流及び共同学習の授業において教科等の指導目標を達成すること

### 特別支援学校

#### 自立活動の指導

- 自立活動の時間における指導の設定状況  
各教科等を合わせた指導の中で行っている学校は、特に知的特別支援学校が多い

- 自立活動の指導計画の作成において指導すべき課題を明確にして指導目標及び指導内容を設定するための取組

学部や障害種に関わらず学級や学年などの話し合いが多い 評価方法の工夫も同様

#### 準ずる教育課程

- 小学部(第3・6学年)、中学部(第3学年)における年間授業時数、及び高等部における増単・減単している教科・科目とその理由

小・中学部	家庭科、体育科、総合的な学習の時間等の中央値が、標準値より少ない傾向
高等部	数学Ⅰや現代の国語等で増単している傾向

#### カリキュラム・マネジメントの課題

- 小・中学部及び高等部のカリキュラムマネジメントを進めるにあたって  
自校の教員のカリキュラム・マネジメントに関する専門性が不足している  
システムが構築できていないと感じている教務主任が多い状況が把握できた

#### 知的障害の教育課程及び自立活動を主とした教育課程

- 各教科の授業時数

聴覚障害特別支援学校の国語科が多く音楽科が少ない

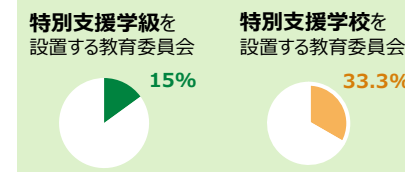
知的特別支援学校の生活科や体育・保健体育科が多い

肢体不自由特別支援学校及び病弱特別支援学校では体育・保健体育科が少ない傾向

### 教育委員会

#### 教育課程等の管理

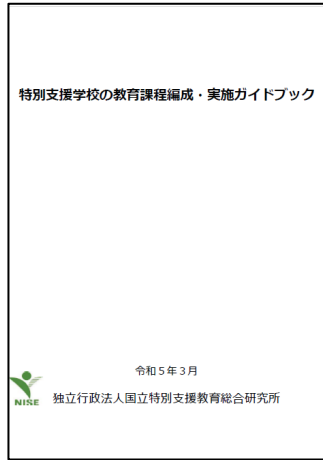
- 各教科等を合わせた指導の中で取り扱われる各教科等の授業時数の内訳を「算出している」教育委員会



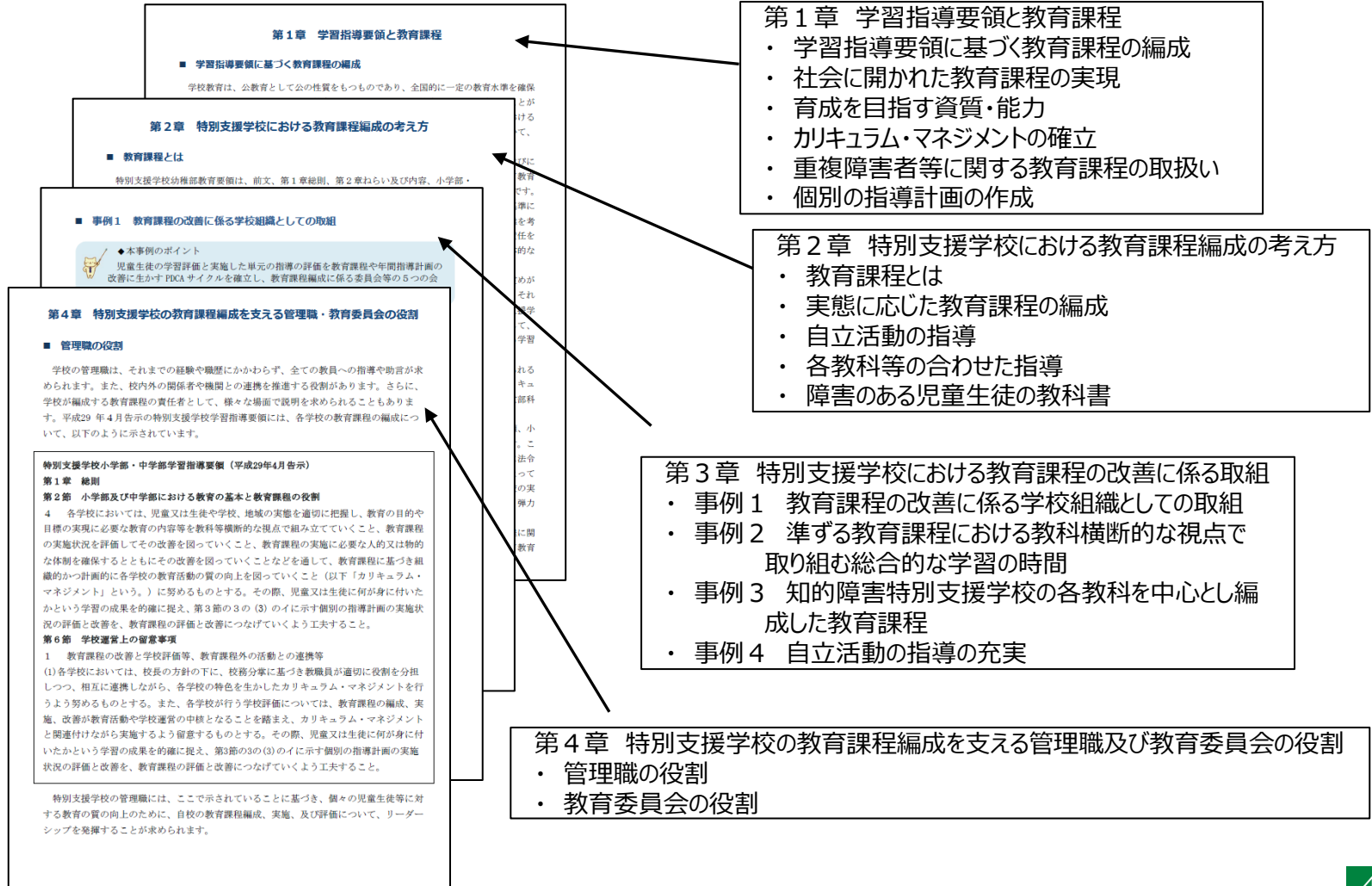
- 各学校が編成する教育課程を管理、執行する教育委員会の役割は重要であり、届け出の様式を含めて、**各学校の教育課程の把握内容を検討**することも課題であると考え

今後の展望として、関係法規や学習指導要領の規定の理解を促す取組を検討することが必要であり、各学校がこれらの規定をどのように踏まえ、どのような根拠で授業時数を算出しているかなどの視点から分析し、次期学習指導要領の改訂に向けて論点を提言することが必要であると考え。

- 本ガイドブックは、重点課題研究「学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価・改善に関する研究」（令和3年度～4年度）の研究成果報告書の一部として作成したものです。
- 教育課程の編成・実施に関する**基本的な事項**についてまとめ、教育課程の**改善に取り組んだ特別支援学校の事例**を紹介しています。



QRコードはこちら  
研究所HPにも掲載



# ICT等を活用した障害のある児童生徒の指導・支援に関する研究



## ■ 背景：GIGAスクール構想によるICT環境の拡充 – 1人1台端末の整備–

GIGAスクール構想は「全ての人にグローバルで革新的な入口を」（Global and Innovation Gateway for All）と謳われており、そこでは多彩な子供たち（特別な支援を必要とする子供を含む）を誰一人取り残すこと無く、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指している。全ての教員に求められるものであり、学校全体としてICT活用の推進に向けて取り組むための知見の提供が必要であると考えられた。

### 先行研究や市販の参考図書などのレビュー

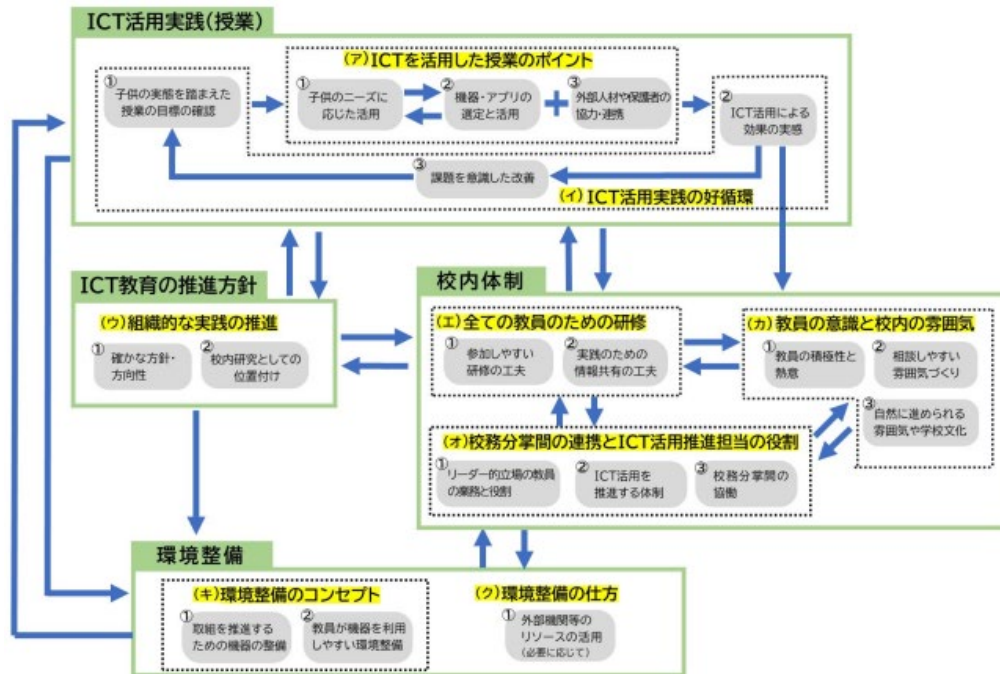
事例紹介は多くある一方で、学校における取組の進め方についての情報が殆ど紹介されていない

### 研究の成果

#### ● ICT活用を推進するためのプロセスモデルを提案

研究協力機関である青森県の全ての特別支援学校に配置された「ICT活用教育推進リーダー」の意見等から「ICT活用の推進に向けた10の視点」を抽出

全国の都道府県教育から、1人1台端末環境下において特色あるICT活用の取組の推薦を得て、上記の視点を踏まえた聞き取り調査を実施した上で質的分析方法によりプロセスモデルを提案



#### ● ガイドブックの作成

『特別支援教育におけるICTを活用した教育を推進するために 推進ガイド【特別支援学校編】』を作成



#### 活用について

- 複数人でチェックを付け、重点的に取り組む優先順位をや具体的な方法を協議
- 先進的に取り組んでいる学校のアイデアや工夫をヒントに
- 都道府県教育委員会でICT活用推進のための指導助言や必要な施策を自治体で検討する際の状況の把握の参考に

← 推進ガイド

#### 相談しやすい雰囲気づくり

#### 計画から実践までサポート

機器を使用する場合には、計画段階から情報部のメンバーが身近にいて、こんな機器がある、こんなふうに使えんことを伝え広めています。実際の授業にも、情報部がついて行うなど支援を行っています。

#### 相談シートの活用

ICT活用相談シートを作って、困っていることがあれば提出してもらっています。出された相談にはしっかりと時間をとって対応しています。



# 障害のある子どもの就学先決定の手続きに関する研究

## 背景

- 障害のある子どもや外国につながる子どもとその保護者にとって、就学に関する不安や悩みは大きい。
- 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの理念の構築において就学先決定手続きの検討は重要

## 目的

- ① 全国の市区町村教育委員会における就学先や学びの場の決定手続き等に関する現状と課題を明らかにする。  
⇒質問紙調査（令和3年度 対象：市区町村教育委員会1,740、解答数：748、回収率：43.0%）
- ② 質問紙調査結果等から特色ある取組をしている教育委員会を訪問し、好事例を収集、整理する。  
⇒訪問調査（令和4年度 対象：特色ある取組をしている10市町）
- ③ 調査結果を全体的に考慮し、就学先や学びの場の決定手続き等に関する全国的な現状と課題、好事例としての市区町村の取組等を取りまとめた研究として情報提供を行う。

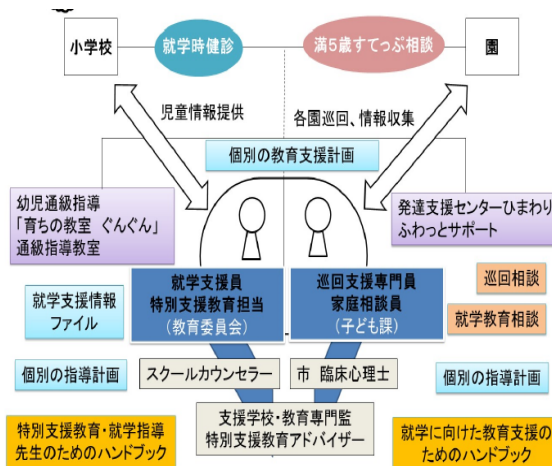
## 子どもと保護者が安心して就学を迎えるための提言をしたい！

## 研究の方法

- 1 乳幼児期から就学期まで、関係機関の連携により切れ目ない支援が実現している。
- 2 教育委員会が乳幼児期から親子に関わるしくみがある。
- 3 保育所・認定こども園・幼稚園と小学校の支援とをつなぐしくみがある。
- 4 就学に関する手続きや小学校の生活や学びに関する情報が十分に提供され、子どもや保護者が見通しを持つことができる。
- 5 就学後の学びの場の変更が柔軟になされる。
- 6 外国につながる親子については、上記 1 から 5 に加えて、親子が理解できる言語を用いた実態把握や情報提供がなされる。

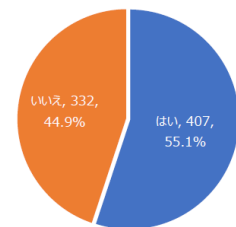
## 1 2

### 教育委員会と福祉部子ども課の連携（大館市）



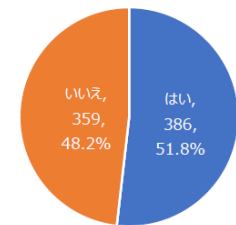
## 3

### 小学校と情報共有するためのツールの作成と活用状況（質問紙調査）



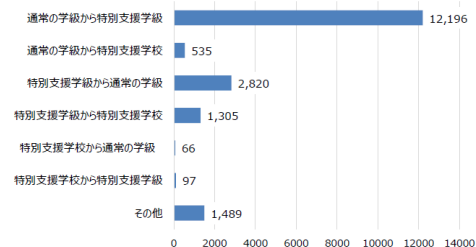
## 4

### 保護者対象の説明会やガイダンスの有無（質問紙調査）



## 5

### 就学後の学びの場の変更の状況（質問紙調査）



## 6

### 外国人保護者向けパンフレット（真岡市）





# 知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究

## 背景

- 資質・能力の育成状況を把握し、指導の配膳を図る
- 現在求められている単元づくりや学習評価の方法を確立する
- 一人一人の障害の状態に応じて、生活上の課題をもとに学習する教育を進める
- 学習評価方法の標準化ではなく、それぞれの子供の実態に応じた方法が求められる

## 目的

- 全国学習指導要領に示された目標・内容との関連性
  - 指導内容の妥当性を高める学習評価の方法と留意点
- 以上を中心に検討し、知的障害のある児童生徒に対する教科別の指導及び各教科等を合わせた指導における学習評価の方法について、工夫や課題点を示す。

## 研究 A

国内及び国外文献調査による理論研究

### 学習評価の基本的な考え方

#### 対象

- 単元で扱われた教科の目標・内容
- 観点別学習状況の評価が基本

#### 概要

- 知的障害のある児童生徒の学習評価は文章による記述
- 基本は小中学校と同様

### 検討すべき課題

- 1 単元目標、評価規準の設定方法の検討  
→ 実態差がある児童生徒の学習集団が対象
- 2 各教科等以外の力の評価の検討  
→ 日々の生活の質が高まるよう指導することや、生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据える
- 3 基本的な知見を踏まえた、単元作成プロセスの在り方とそのバリエーションの可能性
- 4 評価規準の設定方法と学習評価方法の関係

## 研究 B

単元づくりの課題と単元作成プロセスの検討

### 課題の整理

- 1 児童生徒の実態に応じた単元目標の設定
- 2 評価の作成
- 3 各教科等を合わせた指導で取り扱う教科等の整理
- 4 教員間の情報の共有と各教科等との関連

### プロセスモデルの検討

- 指導目標の設定
  - 評価規準の作成の工夫や留意点を提示
- 「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」では各々留意点等が異なる。

### 検討すべき課題

- 学習指導要領を踏まえた単元計画の作成や授業づくり
- 評価規準の設定や学習評価の実施を支援

指導携帯ごとに「単元作成プロセスモデル」を作成する

「単元プロセスモデル」をもとに「単元計画シート」を作成する

## 研究 C

単元づくりと学習評価に関する事例研究

### 課題の整理

- 1 一人一人の児童生徒への付いた力を意識した上で、学習指導要領の目標・内容と関連付け単元目標の設定の実施
- 2 特別新学校小学部、中学部 学習評価参考資料（文部科学省、2020）に示された観点別学習状況の評価の実施
- 3 学習指導要領に示されている目標・内容を踏まえた、単元づくりと学習評価を行う際の工夫点や課題点の考察
- 4 実践に関わる資料提供

### プロセスモデルの検討

#### 教科別の指導における単元作成と学習評価

事例 1	中学部 国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 段階別に評価規準を設定</li> <li>● 生徒の自己評価も含めた学習評価</li> </ul>
事例 2	算数科	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取り扱う内容の段階が一つの集団に共通の評価規準を設定</li> <li>● ABCの標語で評価レベルに分けて学習評価</li> </ul>
事例 3	社会科	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準を設定</li> <li>● 個別に指導目標を立てて学習評価</li> </ul>

#### 各教科等を合わせた指導における単元作成と学習集団

事例 1	生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取り扱う内容が複数の集団に共通の評価規準を設定</li> <li>● 個別に達成状況の評価</li> </ul>
事例 2	遊びの指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重複障害のある児童に共通の評価規準を設定</li> <li>● 個別に達成状況の評価</li> </ul>
事例 3	作業学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 段階的に評価規準を設定</li> <li>● 生徒の自己評価も含めた学習評価</li> </ul>
事例 4	生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取り扱う内容の段階が複数の集団に生活年齢に応じた共通の評価規準を設定</li> <li>● 段階別評価規準を用いて学習評価</li> </ul>

## 総合考察

児童生徒の学習内容と、指導要領の関連性を高める

単元目標と評価規準の関連

知的障害教育における学習評価

## 今後の課題

各教科等の学習状況の把握と個別の指導計画との関連

児童生徒の目標・内容の取扱いと教育的対応

単元・1単位授業それぞれの目標と評価規準の設定

## 委託研究

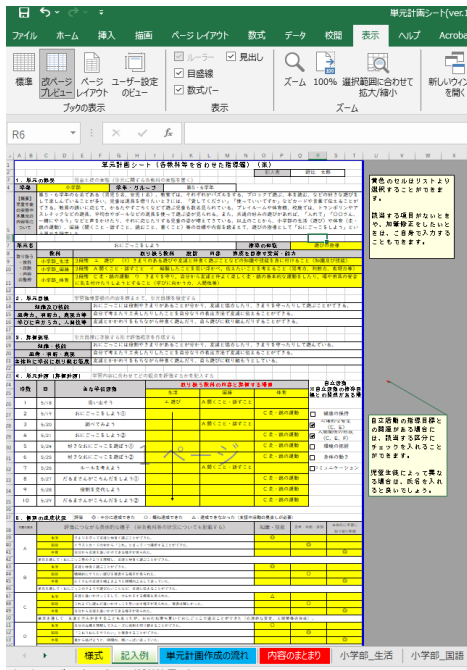
児童生徒の主体的な学習を促す授業づくりと学習評価に関する研究－つきたい力の指導と評価

学習評価の効果的活用に向けて－「主体的に学習に取り組む態度」の評価におけるキャリア発達の見点と「対話」の意識

# 障害種別特定研究（令和3～4年度）知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究 知的障害教育における学習評価に関する情報普及ページ



- 障害種別特定研究課題「知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究（令和3～4年度）」の研究成果を学校現場において広く活用していただくことを目的に、知的障害教育研究班では、**情報普及ページ**を開設
- **単元計画シートのエクセル様式**や、学習評価に関連する**説明動画**なども掲載



特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 (H29.4) p00～p09  
目録・内容の一覧 (生活)

小学習	生活	社会	自然	総合
<p><b>知識及び技能</b></p> <p>① 日常生活や学習活動において、自分の身、身のまわりの人、社会及び自然の環境を知る、それらの関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p> <p>② 自分自身や身のまわりの生活のことで、身のまわりの人、社会及び自然の関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p> <p>③ 自分自身や身のまわりの生活のことで、身のまわりの人、社会及び自然の関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p>	<p><b>知識及び技能</b></p> <p>① 日常生活や学習活動において、自分の身、身のまわりの人、社会及び自然の環境を知る、それらの関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p> <p>② 自分自身や身のまわりの生活のことで、身のまわりの人、社会及び自然の関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p> <p>③ 自分自身や身のまわりの生活のことで、身のまわりの人、社会及び自然の関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p>	<p><b>知識及び技能</b></p> <p>① 日常生活や学習活動において、自分の身、身のまわりの人、社会及び自然の環境を知る、それらの関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p> <p>② 自分自身や身のまわりの生活のことで、身のまわりの人、社会及び自然の関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p> <p>③ 自分自身や身のまわりの生活のことで、身のまわりの人、社会及び自然の関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p>	<p><b>知識及び技能</b></p> <p>① 日常生活や学習活動において、自分の身、身のまわりの人、社会及び自然の環境を知る、それらの関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p> <p>② 自分自身や身のまわりの生活のことで、身のまわりの人、社会及び自然の関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p> <p>③ 自分自身や身のまわりの生活のことで、身のまわりの人、社会及び自然の関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p>	<p><b>知識及び技能</b></p> <p>① 日常生活や学習活動において、自分の身、身のまわりの人、社会及び自然の環境を知る、それらの関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p> <p>② 自分自身や身のまわりの生活のことで、身のまわりの人、社会及び自然の関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p> <p>③ 自分自身や身のまわりの生活のことで、身のまわりの人、社会及び自然の関わりについて理解し、考えたことを表現することができる。</p>

学習評価に関する説明動画

知的障害教育における学習評価に関する説明動画

1. 知的障害教育における学習評価参考資料を踏まえた評価規準の設定について

令和2年に文部科学省から出された「特別支援学校小学部・中学部 学習指導要領」で示された、内容のまとまりなどの評価規準を作成する際の手順を確認します。

2. 知的障害教育における学習指導要領を踏まえた単元作成について

知的障害教育における学習指導要領を踏まえた単元づくりと学習評価の適切な実施に向けた、単元作成について説明します。

学習活動を行う場合に生じる困難さや「見方・考え方」を働かせる際の困難さ

特別支援学校「自立活動」(第3 個別の指導計画の作成と内容の取扱い)～各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習(探究)の時間及び特別活動の指導と密接な関連を保つようし、計画的、組織的に指導が行われるようとする。

自立活動の目標や内容とも密接に関連する!

単元計画シート(ver.1.2a).xlsx  
取り扱う内容の確認の際に、特別支援学校学習指導要領を参照することが可能

特別支援学校学習指導要領解説(知的障害)の各教科の目標・内容を一覧にまとめたもの

学習評価に関する説明動画



情報普及ページのQRコードはこちら  
研究所HPに掲載

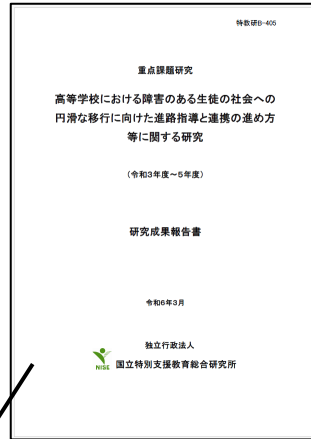
# 令和5年度終了 研究課題の研究成果

○研究成果報告書サマリー集  
(令和5年度終了課題  
1 課題掲載)



○研究成果報告書 (高校進路指導)

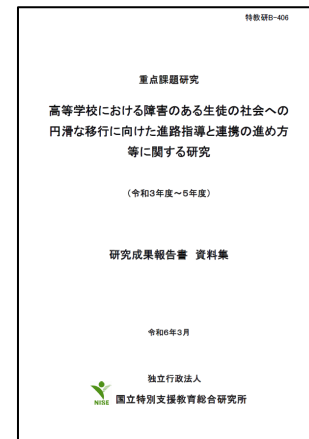
高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究  
(令和3～5年度)



高等学校、進路先、並びに連携先機関を対象に質問紙調査を実施し、高等学校には、インタビュー調査も実施した。調査結果については、高等学校の現状に鑑み、本報告書及びガイドブックにおいて発達障害等を対象にまとめ。

○研究成果報告書 (高校進路指導)  
【資料編】

高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究  
(令和3～5年度)



研究成果報告書の資料集に相当するもの。予備的インタビュー調査の結果のほか、質問紙調査のうち、報告書に掲載していない障害種別のデータを精選の上、掲載。

○研究によって得られた知見を学校現場で活用しやすいようにガイドブックとしてまとめたものを書籍化(事例で学ぶ！発達障害のある高校生の進路指導ガイド)



※研究成果報告書本体及び資料編のQRコードはこちら



# 高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究

【目的】高等学校に在籍する発達障害等のある生徒の ①進路先（大学、企業）での状況及び課題と高等学校に期待する進路指導の取組の把握、②高等学校における進路指導の状況及び課題と、課題解決に向けて参考となる事例の把握、③高等学校における特別支援学校や関係機関（福祉・労働機関）との連携状況及び課題の把握、④ガイドブックの開発

## 進路先への調査

<b>大 学</b>	<p><b>【発達障害学生が呈する困難】</b> 「メンタルヘルスの安定やストレスの解消方法を身につけること」「人間関係を築き、チームで活動すること」「計画的に行動すること」等</p> <p><b>【大学で提供された支援】</b> 「カウンセリングの提案・実施」「合理的配慮に向けた情報共有」「期限の調整や必要な機材の購入」「授業参加に対する支援」等</p> <p><b>【進路指導への期待】</b> 「生徒の自己理解（特性・適性）を促す指導・支援」「大学のカリキュラム等の理解」「適性に応じた学部・学科等の理解」といった生徒の特性や希望を踏まえた進路指導や「支援窓口の理解」「学生生活の理解」といった大学に関する基礎理解等</p>	<b>企 業</b>	<p><b>【発達障害社員が呈する困難】</b> 「他者とストレスなく過ごすこと」「相手の意図を正しく理解すること」「臨機応変に対応すること」等</p> <p><b>【企業で提供されている支援】</b> 「面談・相談の実施」「メンター、担当者等による支援」「業務上の配慮」「ジョブコーチによる支援」等</p> <p><b>【進路指導への期待】</b> 「就労に向けた支援体制の整備」「生徒の特性と仕事のマッチング」といった生徒の特性と希望を踏まえた進路指導や「コミュニケーション力」など業務に関するスキルの習得に向けた支援・指導、「インターンシップや職場体験等の実施」等</p>
----------------	--	----------------	---

## 高等学校への調査

**【状況】**

- ・定時制・通信制は、全日制に比べて発達障害等のある生徒の在籍に意識が高く、適性に応じた進路指導や関係機関との連携に取り組んでいる傾向
- ・全日制は、発達障害等のある生徒の適性を意識して進路指導に取り組んでいるとは言えない状況があり、指導内容や関係機関との連携に課題がある
- ・発達障害等のある生徒の進路指導が困難となる2つの要因は、「生徒自身の特性に対する理解不足」と「進路先に対するイメージの持ちづらさ」
- ・全日制では進路選択以外の指導は、通級による指導を活用、定時制では、教科や学校設定科目の中で進路指導に期待される内容を実施する傾向

**【期待される指導内容】**  
「校内における教員間の連携と生徒への配慮」「保護者との連携」「高等学校入学前からの継続的指導・支援と引継ぎ」「関係者間での情報共有」が期待される

### 進路指導・支援に向けた5つのポイント

- 1.組織的対応
- 2.自己理解を促す指導・支援
- 3.自立と社会参加への力を育む指導・支援
- 4.進路先決定を支える指導・支援
- 5.連携による支援

## 連携先への調査

※高等学校からの依頼が少ないことが課題

<b>特 別 支 援 学 校</b>	<p><b>【発達障害学生が呈する根幹】</b> 「研修やセミナーの実施」「障害特性の理解と支援方法」「就労に向けた支援」「ケース会議の参加」等といった教員への助言・情報提供や「生徒への支援」「保護者への支援」等</p>	<b>福 祉 労 働 機 関</b>	<p><b>【支援可能な内容】</b> 「研修やセミナーの実施」「就労に向けた支援」「ケース会議の参加」「就労支援機関や福祉サービスについての情報提供」「アセスメントの相談・実施」といった教員への助言・情報提供や「卒業後の生徒への支援」等</p>
--	--	--	---

## 障害種別研究

### 障害種別研究班

視覚障害教育研究班

聴覚障害教育研究班

知的障害教育研究班

肢体不自由教育研究班

病弱・身体虚弱等教育研究班

言語障害教育研究班

自閉症教育研究班

発達障害又は情緒障害教育研究班

重複障害教育研究班

障害種別の研究班においては「障害種別特定研究」のほか、「基礎的研究活動」として、

- ・各教育分野の指導の充実等に寄与する資料の収集や調査・分析
  - ・各教育分野の実態等を定期的に把握・分析することを目的とした年次基礎調査、
  - ・それらの結果の普及 等、
- 当該障害種に係る基礎的・継続的な研究活動を行う。

## テーマ別研究

社会的背景等から必要なテーマ別研究班を設置し、関係団体との連携を図りながら基礎的研究活動を行い、その成果を重点課題研究や国の政策立案等に生かす。

### テーマ別研究班

特別支援教育におけるICT、教材・教具の活用に関する研究班（ICT班）

障害のある児童生徒のキャリア教育及び就労支援に関する研究班（キャリア班）

乳幼児期の特別支援教育に関する研究班（幼児班）

外国につながるのある子供の特別支援教育に関する研究班（外国人等班）

# テーマ別研究班の活動

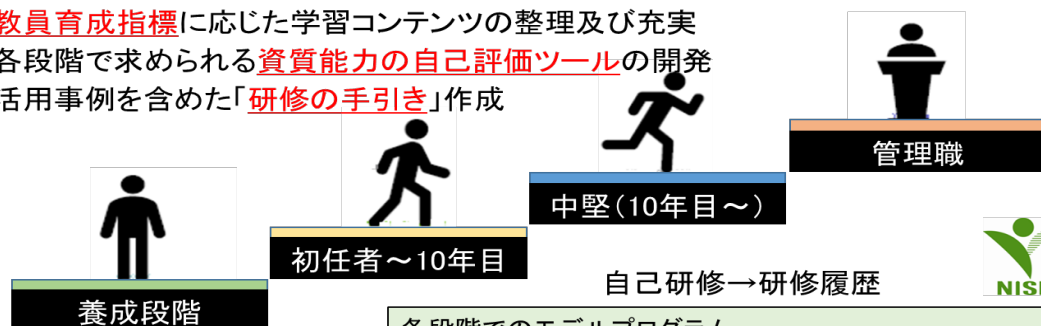
■ 障害種の枠を超えて、今後の学校教育において検討すべき課題や現場の喫緊の課題について基礎的な調査を含め研究活動を行う4つのテーマ別班を構成し、研究活動を行っている。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
【ICT班】 特別支援教育におけるICT、教材・教具の活用に関する研究班	①特別支援教育におけるICT機器等の活用に関する事例研究 ②特別支援教育における学校等のICT機器等の活用に関する調査研究 ③ICT機器等の活用に関わる情報収集活動 (学校訪問、外部機関との連携、学術集会・研修等への参加、所内研究チーム・班との連携・協働等) 情報支援部が管理する「特別支援教育教材ポータルサイト」への支援				ICT機器等の活用に関する情報のまとめ、電子媒体資料を活用した情報公開
【キャリア班】 障害のある児童生徒のキャリア教育及び就労支援に関する研究班	(1)高校段階で求められる専門性の情報収集・整理	(2)中学、小学段階で求められる専門性の情報収集・整理 特別支援学校(小～高等部)におけるキャリア教育に関わる教員の指導力の向上に資する情報の収集	(3)キャリア教育に関わる教員の専門性の整理	障害のある児童生徒のキャリア教育に関わる教員の専門性を支える研究知見の普及 (1)教育資料(Q&A集)案の作成(6年度) (2)教育資料(Q&A集)の市販化・普及活動(7年度)	
【幼児班】 乳幼児期の特別支援教育に関する研究班	幼稚園等における特別支援教育の実態等に関する全国調査の実施	同左、全国調査の分析と結果の公表	幼稚園等における特別支援教育の充実につながる情報発信資料(実践ガイドブック等)の作成	情報発信資料の検証及び修正	
	全国調査結果及び研究班メンバーが持つ情報から、特別支援教育に関して特色ある実践をしている幼稚園等を訪問し、実践事例を収集するとともに、保育学関連の学会等に参加し、継続的に保育現場の実践から学びを深める				
【外国人等班】 外国人につながるのある子供の特別支援教育に関する研究班	小中学校の特別支援学級に在籍する障害のある外国人児童生徒等の指導・支援等に関する事例研究(現状と課題等の整理)	各調査結果により抽出した小中学校の特別支援学級及び通級による指導を利用している障害のある外国人児童生徒等への指導・支援等に関する事例研究	「小中学校における障害のある外国人児童生徒等の支援体制等の現状について」の予備調査の実施	同左の調査の実施・整理	同左の調査の分析・考察
	「障害のある外国人児童生徒等受け入れのための配慮事項(仮)」の作成・発行 ○小中学校版 障害のある外国人児童生徒等の受け入れの配慮事項を作成 ○「障害のある外国人児童生徒等受け入れのための配慮事項(仮)」に基づく研修コンテンツの作成				

# 教師の学びを支援する「NISE学びのアシスト」



1. 教員育成指標に応じた学習コンテンツの整理及び充実
2. 各段階で求められる資質能力の自己評価ツールの開発
3. 活用事例を含めた「研修の手引き」作成



- ◆ 特別支援教育全般コンテンツ
- ◆ 障害種別コンテンツ
- ◆ 職能別コンテンツ
- ◆ 学校種別コンテンツ

各段階でのモデルプログラム

- ・テーマ
- ・目標
- ・コンテンツ
- ・課題(演習・ワーク等)
- ・自己評価(理解度チェックテスト、チェックリスト等)
- ・視聴修了証明書の発行(研修履歴)

インターネットによる講義配信  
NISE 学びラボ  
～ 特別支援教育eラーニング ～

既存コンテンツ  
新規コンテンツ

モデルプログラム

試行・修正

研修の手引き  
(活用事例含む)

令和6年運用開始

教師に求められる学び

- 個別最適な学び
- 協働的な学び

個人登録による学び  
団体登録による学び

個人研修履歴

- 教師の研修履歴の記録(義務付け)
- この記録を活用した教師の資質向上に関する指導助言等を行う仕組みが制度化

教員研修プラットフォーム  
(運営:教職員支援機構)



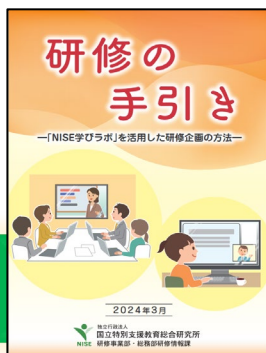
多様な研修コンテンツをワンストップ化

コンテンツの考え方

成果確認が必要



- ◆ 確認テスト等の作成  
個々のコンテンツ  
研修プログラム
- ◆ 演習・ワーク等の作成  
モデルプログラム



令和5年4月に各都道府県・指定都市教育委員会及び教育センターに「研修の手引き(試案)」お送りしました。いただいたご意見等をもとに令和6年3月末にバージョンアップした「研修の手引き」(正式版)を発行しました!

NISEの研修、ぜひ、ご活用ください!

## 1. ログイン画面

URL : [https://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/online](https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/online)

付与されたIDとパスワードでログインします。

初めての方は、画面右「利用申請」から利用申請を行ってください。



## 2. コンテンツの選択

コンテンツ一覧から視聴したい講義のコンテンツを選択します。

団体申込みも可能です。

詳細は [a-manabilabo@nise.go.jp](mailto:a-manabilabo@nise.go.jp) まで



ログイン後のホーム画面です。

「コンテンツ一覧」のボタンを押します。

170以上の講義コンテンツが、「分類」→「コース」→「コンテンツ」という階層で整理されています。それぞれの階層リストから興味のある内容を選び、視聴したいコンテンツを選択します。

## 特別支援教育全般

インクルーシブ教育システム関連  
【23 コンテンツ】  
1コンテンツ：9'18"～42'21"

幼児期における特別支援教育  
【5 コンテンツ】  
1コンテンツ：19'54"～32'03"

役割と連携  
【3 コンテンツ】  
1コンテンツ：26'05"～39'45"

各障害に関する諸検査  
【4 コンテンツ】  
1コンテンツ：17'38"～23'38"

各学びの場における教育  
【5 コンテンツ】  
1コンテンツ：20'49"～41'18"

高等学校段階における特別支援教育  
【6 コンテンツ】  
1コンテンツ：20'03"～34'57"

発達、生理・病理  
【4 コンテンツ】  
1コンテンツ：23'19"～45'38"

【50 コンテンツ】

## 障害種別の専門性

視覚障害  
【9 コンテンツ】  
1コンテンツ：16'28"～38'19"

肢体不自由  
【9 コンテンツ】  
1コンテンツ：9'26"～23'13"

情緒障害  
【4 コンテンツ】  
1コンテンツ：21'10"～39'35"

聴覚障害  
【9 コンテンツ】  
1コンテンツ：18'05"～37'20"

病弱・身体虚弱  
【6 コンテンツ】  
1コンテンツ：15'39"～25'11"

発達障害  
【21 コンテンツ】  
1コンテンツ：14'09"～32'42"

知的障害  
【16 コンテンツ】  
1コンテンツ：6'11"～27'19"

言語障害  
【8 コンテンツ】  
1コンテンツ：17'14"～40'56"

重複障害  
【12 コンテンツ】  
1コンテンツ：18'08"～35'40"

【94 コンテンツ】

## 通常の学級における学びの困難さに応じた指導

総論  
【2 コンテンツ】  
1コンテンツ：16'38"～19'12"

小学校段階  
【13 コンテンツ】  
1コンテンツ：12'51"～20'20"

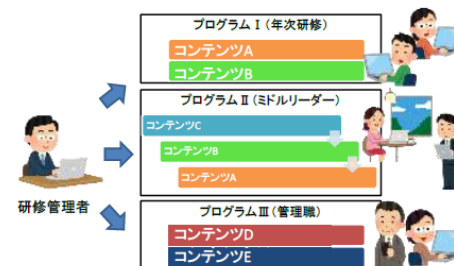
中学校・高等学校段階  
【13 コンテンツ】  
1コンテンツ：13'06"～23'05"

【28 コンテンツ】

学びラボは、登録いただいた各団体のニーズに合わせて、特別支援教育に関するオンライン研修の提供を支援します。

## (1) NISE が配信する講義コンテンツを組み合わせた研修プログラムの作成

学びラボでは、目的に応じて**コンテンツを組み合わせ**て、受講者が視聴する**研修プログラムを作成することが可能**です。設定により、一定の視聴順序に従った視聴を受講者に求めることも可能です。



## (2) 受講者ごとに異なる研修プログラムの配信

学びラボでは、**受講者ごとに異なる研修プログラム**を配信することが可能です。「特別支援学校初任者」「特別支援学級新任」「通級新任」「ミドルリーダー」「管理職」など、研修の企画ごとに研修プログラムを割り当てて配信することができます。

## (3) 研修プログラム別の視聴状況の確認

学びラボでは、作成した研修プログラムごとに**受講者の視聴状況（未受講、受講中、受講済）を把握**することが可能です。

## (4) 受講者別の視聴状況の確認

学びラボでは、研修プログラムに参加する一人一人の受講者の**学習状況**（受講状態、講義閲覧回数、講義閲覧累積時間、講義初回閲覧完了日時、講義最終閲覧日時、受講期間など）を**把握**することが可能です。

## (5) 視聴修了証明書の発行

学びラボでは、研修プログラムの視聴を修了した受講者に対し、**視聴修了証明書**を発行することが可能です。



## (6) 受講者へのお知らせ

学びラボでは、ログイン後のホーム画面にある「お知らせ」に各種のお知らせを掲示したり、受講者にメールを配信したりすることが可能です。

## ICT活用実践演習室 [あしたの教室]の活用

通常の学級で、障害や困難さがある児童生徒が共に学ぶために、ICT機器を使ってどのような支援ができるかを、授業スタイルで考えるための研修や演習を行う教室です。



(ICT機器を活用した通常の学級の授業を体験)

(あしたの教室を仕切り、病院を想定し、遠隔で授業に参加している状況を体験)



## 教育支援機器等展示室 [ライブラリー]

障害のある子供一人一人の教育的ニーズに応じた支援を実現する様々な教育支援機器やソフトウェアの展示室です。

主に、学校で利用可能な市販品を障害種ごとにコーナーを設け、説明パネル等を使って紹介しています。



インクルDB(インクルーシブ教育システム構築支援データベース)は、子どもの実態から、どのような基礎的環境整備や合理的配慮が有効かについて、参考となる **590事例** を紹介しています

研修会での事例検討にも活用できます。インクルDBは、各学校の先生方だけでなく、保護者の方や広く一般の方々にもご利用いただくことができます

① Aさん、字を書くのが苦手で困っているみたい。なんとかしてあげたいな。



② そうだ！この前の研修会で「インクルDB」の話があった。早速調べてみよう。



③ 字を書くことに関するたくさんの事例がある。なるほど、こういう合理的配慮もあるんだ。



④ 保護者の方と支援の内容や方法について話し合い、合理的配慮の形成します。



⑤ Aさん、字が書きやすくなったみたい。よかった！



事例を  
ダウンロードして  
御活用ください！

インクルDBのページにはこちらから

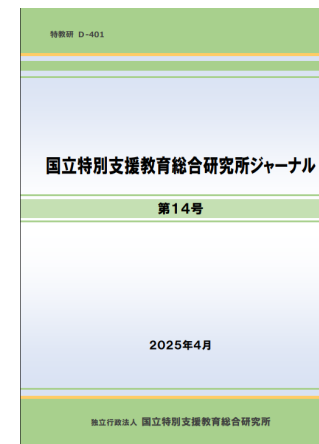
インクルDB



- ・海外のインクルーシブ教育システムに関する情報を収集し、研究所セミナー、ジャーナル等で広く発信しています。
- ・海外の研究機関等との交流、研究職員の海外派遣、海外の教育行政担当者や学校教員等の視察・研修の受け入れ等を通じて国際交流を推進しています。

## ○国立特別支援教育総合研究所ジャーナルでの発信

収集した海外の情報を、特総研ジャーナルより情報発信。「各国におけるインクルーシブ教育システムの動向」を紹介しています(ウェブサイトから御覧いただけます)。



ジャーナル第14号  
(令和7年4月発行)

## ○海外の研究機関との研究交流の推進

### 【研究交流協定締結機関】

韓国国立特殊教育院(平成7年11月締結,令和元年7月再締結)

ケルン大学人間科学部(平成10年11月締結)

フランス国立特別支援教育高等研究所(平成27年3月締結)

## ○韓国国立特殊教育院との交流

両機関の情報共有と交流を深めるため、特別支援教育協議会の開催等を実施。



独立行政法人

**国立特別支援教育総合研究所**

National Institute of Special Needs Education